

ニュースレター

平成28年度 第1-2号 (日程更新版)

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成28年8月31日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

- 昨年度、皆さんからのご意見を基に策定した「乳幼児教育ビジョン」を広く市民の皆さんにお知らせします。
- 公私の保育所・幼稚園、学校の保育者・教員対象の「乳幼児教育の質の向上研修」を実施します。

なお、舞鶴市は文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の委託を受け、この事業を通して、「幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究」を行います。

舞鶴市 平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

乳幼児教育ビジョンの周知

- 講演会、説明会等の開催
- ビジョン通信の発行
  - ・家庭向けにビジョンの内容をわかりやすく示す
  - ・市民の意見を聴き反映予定
- ※助言者：溝邊和成教授(兵庫教育大学大学院)

乳幼児教育センター・コーディネーター機能研究

- 行政による乳幼児教育の拠点機能研究
- 乳幼児教育の実践と専門家による研究等  
各分野をつなぐコーディネーターの育成研究

乳幼児教育の質の向上研修 対象：保育所・幼稚園、小学校

全体講師：北野幸子准教授[神戸大学大学院]

子どもを主体とした保育

- 講師：北野幸子准教授  
(神戸大学大学院)
- ◇公開、カンファレンス、グループワーク
- ◇ドキュメンテーション

保幼小連携

- 講師：木下光二教授  
(鳴門教育大学大学院)
- ◇公開、カンファレンス、グループワーク
- ◇小学校教育研究会生活科部夏季研究会合同研修会

保幼小接続カリキュラム策定研究

- 講師：溝邊和成教授  
(兵庫教育大学大学院)
- カリキュラム策定会議
  - ・保育所、幼稚園、小学校の保育者・教員代表
  - ・H28年度：研究  
→次年度策定
- 保幼小中保育者・教員研修(全園・全校対象)

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議

文部科学省の調査研究委託事業の実施について、研究推進体制の検討、研究結果の分析やとりまとめ、普及等の意見を聴くため設置するもの

各事業のスケジュール等は裏面をご覧ください。

Pick Up

皆さんが取り組まれています公私・園校種を越えた研修事業が注目され、日本保育学会で取り上げられました。(広報まいつる 6月号より)



全国大会で事例発表 舞鶴市の乳幼児教育の取り組みが全国的に注目されています



市では、私立の園にもご協力いただき、保育所・幼稚園や学校の先生を対象にした乳幼児教育の質の向上研修を行政が研究者と連携して実施しています。

公立も私立も一緒に学ぶ取り組みが評価され、平成27年度の日本保育学会課題研究委員会の研究対象となりました。

それを受けて、5月7日・8日に東京芸芸大(東京都)で行われた日本保育学会第69回大会のシンポジウムで舞鶴市も研修事業について発表。発表時に大学教授やジャーナリストなどの委員から出た主な意見は次のとおり。



主な意見

- ◇(公開保育を見て)子どもが主体的に遊びや生活に取り組めるよう環境設定の工夫がされている。
- ◇乳幼児教育には量と質の充実が必要。量が注目される中、舞鶴市が質に目を向けたことは大切。
- ◇0~5歳を対象に地域の子どもは地域で育てるべき。
- ◇公立・私立の保育所や幼稚園も共に学び、行政のサポートで保育の実践者と研究者をつなぎ一緒に取り組んでいる。舞鶴市の研修スタイルを手本にして研修事業を始める自治体が出てきている。

質の高い乳幼児教育の提供に向け着実に進んでいます

さらに、乳幼児教育の推進体制を構築するための調査研究を行い、その成果を普及する文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」に舞鶴市が採択されました。

今後、「舞鶴市乳幼児教育ビジョン(平成28年3月策定)」に基づき、子どもを主体とした保育や保幼小連携など公立・私立の保育者・教員の研修や保育所・幼稚園と小学校との接続カリキュラム研究などに積極的に取り組めます。  
 《幼稚園・保育所課》

## 年間計画：保育者・教員等対象

※都合により変更となる場合があります。

研修期日	研修名	内容	場所
6月17日(金)	子どもを主体とした保育 (プロジェクト型保育)	午前：公開保育・カンファレンス 午後：講義「ドキュメンテーション」 グループワーク	公開：舞鶴幼稚園 講義：勤労者福祉センター
6月18日(土)	乳幼児教育ビジョン講演会	午後：講演 「乳幼児期に大切にしたいこと」	中総合会館 4階 コミュニティーホール
7月14日(木)	子どもを主体とした保育	午後：ドキュメンテーション研修	西総合会館 4階 会議室
7月15日(金)		午前：公開保育・カンファレンス	公開：朝来幼稚園
8月17日(水)	保幼小中連携 生活科研究会と合同開催	午前：園長・校長・保育者・教員向け講演会 午後：連携活動指導案作成	市政記念館 ホール
9月12日(月)	子どもを主体とした保育	午後：ドキュメンテーション研修	西総合会館 4階 会議室
9月13日(火)		午前：公開保育・カンファレンス	公開：うみべのもり保育所
10月20日(木)	子どもを主体とした保育	午後：ドキュメンテーション研修	西総合会館 4階 会議室
10月21日(金)		午前：公開保育・カンファレンス	公開：タンポポハウス
11月10日(木)	子どもを主体とした保育	午前：公開保育・カンファレンス 午後：保育リーダー向け研修	公開：さくら保育園 講義：勤労者福祉センター
11月15日(火)	保幼小連携	午前：連携活動公開授業・保育 カンファレンス	公開：中舞鶴小学校 中保育所、中舞鶴幼稚園
1月25日(水)	保幼小連携	午後：連携活動報告	商工観光センター 展示交流室
2月4日(土)	報告会	園…報告 講師…講評、講演	商工観光センター コンベンションホール
2月27日(月)	保幼小中連携	保幼小接続カリキュラム策定会議メンバー及 び保幼小中の保育者・教員研修・意見交換	商工観光センター コンベンションホール

## 年間計画：保幼小接続カリキュラム策定会議※メンバーのみ

日時	内容	場所	備考
8月17日(水)	保幼小連携研修参加	市政記念館ホール	
10月28日(金)16:00-17:30	策定会議	市役所中会議室	事業説明
12月15日(木)16:00-17:30	策定会議	市役所大会議室	
2月27日(月) 15:00-17:30	策定会議、研修	商工観光センター- コンベンションホール	メンバーだけでなく、保幼小中の保育者・教員を対象とする研修を実施し、意見交換を行う

※園長会等からご推薦いただいた保育者・教員及び園長・校長等による策定に向けた研究を行います。

## 年間計画：市民向け講演会等

日時	内容	場所	備考
6月18日(土)13:30-15:30	講演会	中総合会館4階 ホール	講師：北野幸子先生 ※研修と合同
7月8日(金)	説明会	城南会館	説明：舞鶴市 城南会館の講座
10月29日(土)13:30-15:30	講演会	商工観光センター-展示交流室	講師：溝邊和成先生

平成28年度 第2号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成28年8月31日  
 発行所 舞鶴市健康・子ども部

6月17日(金) 舞鶴幼稚園 公開保育を実施しました。



今年度1回目の公開保育を舞鶴幼稚園で実施しました。各保育所・幼稚園から約60名の参加があり、神戸大学大学院准教授北野幸子先生から乳幼児教育を学んでいただくよい機会となりました。  
 子ども達は日々続けている遊びを楽しんでおり、その遊びを工夫する姿や、遊びにつながるものをイメージして作る姿が見られました。そこに関わる保育者や環境についてもご指導いただき、改めて環境構成の重要性や意図的なねらいを持った保育者の関わり大切さを学ぶ機会となりました。

参加園

永福保育園	朝日幼稚園
岡田保育園	朝来幼稚園
さくら保育園	池内幼稚園
タンポポハウス	倉梯幼稚園
平保育園	シオン幼稚園
東山保育園	橋幼稚園
八雲保育園	三鶴幼稚園
うみべのもり保育所	舞鶴幼稚園
中保育所	
西乳児保育所	

環境構成の時は、遊びと動線と子どもにとってどうか、ということを第一に考える  
 ～北野先生のコメントより～

<砂場～5歳児樋遊び～>

5歳児が中心となって、砂を掘って温泉にする遊びや樋やビールケース、板等を組み立てて水を流す遊びを楽しんでいました。そこに関わる保育者や子ども同士が試行錯誤する姿から、参加者も多くのことを学べました。



北野先生より

◎5歳児が砂場にいることでダイナミックな遊びになり、3、4歳児もその様子を見たり、混ぜたりしてよかった。  
 ◎5歳児が試行錯誤する様子が見られた。保育者が子どもの試行錯誤を支えることは大事だが、どこまで関わり、どこで引いて見守るかが重要で難しい。これが正解というものではなく、関わりは無限にあると思う。  
 ◎子どもがどうしたかったか、どう考えていたかを把握し、関わることよい。  
 担任の思い：ゴムで固定することを思いつき、樋をなんとかしてつなげようとしていた子どもの思いを支えたかった。いつまでも樋を持って関わっていることはよかったのか、他の方法があったのではないかと  
 北野先生：大事にしたいことは、勾配と流れるところが見えることだと思う。結果としてくずれてしまい、別の樋に変えてつながったが、水が流れるところは見えなくなり、勾配もなだらかになってしまった。保育者がそこで樋を持たずに、少しビールケースを移動して、まず固定するとよかったかもしれない。もう一人保育者がいれば、連携しながら関わることでもできたかもしれない。

参加者の記録：樋をつなげたかった子もいたが、そこで板で樋を固定しようとしていた子もいた。その二人の思いのズレもあり、懸命に固定しようとする子にすると動くので崩れてしまい、つなげようとしている子にとっては、崩れるのでうまくつながらず、それぞれ思いと違うので言いあいになる場面もあった。

※保育者には、その場面においてどう関わればよいのか？即座に判断していく力、臨機応変に関わる力が必要とされる。同じ場面を見ている、関わりは一つではない。どれだけ、関わりを引出しを持っているか、どれだけ子どもの姿を見ることができているか、が大事ではないか。



<3歳児 色水遊び、泥で感触遊び ごっこ遊び>

3歳児の子どもたちは、園庭の草花を使って色水作りを楽しんでいる様子や砂場でごっこ遊びを楽しむ様子、水たまりにできた泥に触れて遊ぶ様子が見られました。

北野先生より

◎色水、泥、砂場それぞれの遊びの環境設定が遠すぎて、他の遊びの様子が子どもに見えず、遊びがつながりにくい。  
 ◎色水遊びの場所を砂場に近付けるともっとつながる。お料理ごっこ遊びの中に砂のもの、花のもの、色のある水…つながっていきそうな要素はたくさんあった。  
 ◎偶然できた水たまりの泥遊びでは、感覚遊びという経験の段階ではなく、次の素材に気づいて、作り出す遊びの段階にきていると思われる。道具やごっこ遊びにつながる玩具を置く等の工夫をするとよい。



<4歳児 ガソリンスタンドごっこ>

三輪車遊びが大好きな子どもたちが保育者と一緒にコースを作り、ガソリンスタンドをするために必要な物を作って、それを使って遊ぶ姿が見られました。



北野先生より

◎園庭の端を通るコースは、葉っぱが緑の屋根のようになっていたり、狭さや起伏があったり、築山をすべったり（この日は見られなかった）とてもよかった。  
 ◎ガソリンスタンドの場所や必要な物を作る場所が、他の子どもたちから見えにくく、カードやスイッチ、ボタンの工夫やおもしろさが伝わりにくいのではないかと。  
 ◎ガソリンスタンドの場所は、園庭の真ん中ではなく、築山やコース上にあり、砂場からも見える距離の場所に置いてはどうか。  
 ◎環境設定の時は、遊びと動線と子どもにとってどうか、ということを第一に考えるとよい。



## 公開保育カンファレンス

自分の動きも子どもたちの動きも見えるところ、保育者が入って言葉かけをしたり、ちょっと物を追加して置いてあげたりができる環境が大事。

～北野先生より～

＜指導案＞

◎指導案の中に子ども達の室内遊びの予測がどれくらいあったのか。指導案を書くということは、あんなことあんなこと…と予測して頭に入れている。そして、実際に保育している時にそれが残っていて動きにつながってくる。

◎指導案に3歳児はごっこ遊びのこと、4、5歳児は製作ということが部屋の中の活動として入っていたが、実際どうだったかを保育者間で振り返ることは大切である。  
◎今回は、指導案の中にはあんまりたくさん書いてなかったが、指導案を書く時点でしっかり予測し、安全確保等考えることが大事ではないか。

＜環境＞

◎園庭を見ると、でこぼこが少ない。水たまりができて活用していたのはすごくよかったが、幼児期に育てたいのは重心の移動とバランス感覚なので、そういう意味では狭いところに入って行くコースのイメージができて、そこに築山があってすべり降りて、ぬかるみがあってというのは、とても良い環境である。

◎運動発達に専門家の研究によると、広すぎると子どもの運動発達に関しては動きが実は少なくなってしまうとも言われている。それは、他の子どもがあまり見えないため、動かないとも言える。

◎先生方が本当にあっち動いたりこっち動いたり暑い中ほとんどよく動いてらっしゃった。すばらしいと思うけれど、いろんなところ行くのはすごく遠くて大変。だから、自分の動きも子どもたちの動きも見えるところ、先生が入って言葉かけをした

り、ちょっと物を追加して置いてあげたりができる環境が大事だと思ふ。広い環境をどうやって把握できるかという工夫が必要ではないか。

◎チャレンジしてほしい。環境はほとんどんチャレンジして変えていく。子どもたちの変化から評価する。

◎コーナーの作り方も、色水遊びだとかサーキットの遊びとかいろいろものをこっちに置いてみたらどうなったか、あちに置いてみたらどうだったのかを研究して行ってほしい。

◎クラスを全部一階におろすとよい。理想の園は平屋。

◎子どもが発想し、物を取れる場所が近い方がよい。そして、外に出たり入ったりがもつと頻繁になる。だから室内遊びで作ったものが外遊びの中の製品にもつとなっていくということもある。二階だと厳しいように思うので、全部一階にする方が子どもの遊びが変わるのではないか。

◎室内に自然を観察できる環境がたくさんあった。5歳児は、まさしく協同的な学びと探求する環境が整えられていた。自然が入ったり、そこの探求にどうやって発達の高まっていくかということも、それぞれのクラスの中での自然の物の関わり、科学の物の関わりでの発達が部屋の環境からも見られた。

◎ままごとと絵本のコーナーはしっかり整えられていたが、3歳児にはあのマットは硬いように感じた。イスのようなもの

が、絵本のところにあった方がよい。3歳児は小さいのでぺたっと座るにはあそこは硬いから、柔らかいクッションかソフト積み木か、ちょっとイスになって座れるようなものがあるとなおよい。小さい子の部屋のほうが布素材、やわらか素材のものを入れた方がよい。

◎製作のコーナーは、3歳児は、まだまだ製作遊び、廃材を使った遊びを経験してほしい。また、発達に合わせて、テープの切りやすさ等環境の工夫をするとよい。

◎子どもの姿からの環境ではあるが、促す環境の方もいくつか考えるということも必要ではにか。製作は作りたくなるようなものを見せるのもよい。

＜保育者の関わり＞

◎園庭で青いラインを引いている子がいたが、引くことが遊びになってしまっていた。ラインを引いて三輪車がその後を引いて行くようなよいが、遊びとの関係性も意識して関わっていくとよい。

◎砂場で保育者がお客さん役になって関わっていたが、何をつなぐのか、何を学んでほしいのかを意識して関わってほしい。



6月17日(金) 講義・グループワークを実施しました。

## 講義「ドキュメンテーションとは」

ドキュメンテーションとは・・・

子どもの事実を元にした育ちや学びの見取りやその見通し、時系列的な変化などを書いた教育的な記録でもある

～北野先生より～

乳幼児期の子どもの体験・経験的に学ぶという発達の特徴があり、小学校以降の教科書から概念的に学ぶ形とは大きく異なる。

プロジェクト型保育は、子どもの興味や関心を起点としたテーマを探究し掘り下げていく保育であり、乳幼児期の発達に適した、遊び中心の環境を通じた教育と言える。

しかし、保育は、何をしているのかが見えにくい。遊びに夢中になり、探究する子どもは多くのことを学んでいるが、多くの人には見えない。

見えない学びを可視化する一つの方法として「ドキュメンテーション」がある。ドキュメンテーションとは、「子どもが○

○していた。□□と言っていた。」という断片的なドキュメントではなく、子どもの事実を元にした育ちや学びの見取りやその見通し、時系列的な変化などを書いた教育的な記録でもある。

◎時系列的な変化（プロセス）を大事にしたドキュメンテーション…

・興味・関心を深めている様子  
・体験している様子  
・気づいたこと、感じたこと表現している様子  
・子どもたちの話し合いの様子  
・調べたり、比べたり、深めている様子  
これらを意識して書く。

◎ドキュメンテーション作成のポイント  
・発達の視点  
・育ちや学びの視点  
・5領域の視点  
・保育者の教育的意図（ねらい、かかわり）

◎可視化の目的

・保育を可視化  
・保護者に伝える、知ってもらう  
・子どもが見て共有し、振り返り、評価する  
・他のクラスの保育者も共有し、自分の保育を振り返る  
※根拠となる事実を書くことや「できた」「できない」にならない配慮が必要になってくる。

グループワーク

5つのグループ（1グループ7～8人）にわかれて、事例の記録を元にグループワークを実施しました。いつもは、皆さんに書いていただいたドキュメンテーションを元にグループワークをするのですが、初めて参加される先生方も多く、まずは、記録を取る際に必要な保育を見取る視点を学んでいただくことと実施しました。

視点を定めるためのワークシートは、ドキュメンテーションを書く視点と同じでもあり、園へ持ち帰って活用していただけたと思います。また、今回は、事例の遊び（保育）を保育所保育指針と幼稚園教育要領の5領域でとらえるという試みもしています。ほんの20行たらずの記録、時間でいうとほんの数分（活動は前日から続いてますが）ですが、この中に5領域がすべて含まれていました。遊び一つ一つを丁寧に見取ることの重要性を改めて感じました。

また、どのグループも同じ事例で話し合いを進めたことで、報告の際に理解もしや

すく、共有しやすいという利点もありました。しかし、同じ事例であってもグループによって議論された内容は様々で、改めて保育の奥深さを実感しました。

今日のように保育を語り合うことは、自分の考えをまとめて話したり、自分とは違う視点で保育をとらえたり、自分の保育の引出しを増やすことにつながる効果もあります。

ぜひ、このようなグループワークの方法を園内に持ち帰り、園内研修として活用していただきたいと思います。

※自園でも試してみたいと思われる場合は、乳幼児教育コーディネーターが事例等を準備して、ファシリテーターとして参加し、園内研修のお手伝いをさせていただきますので、気軽にお問合わせください。（幼稚園・保育所課 乳幼児教育推進係 TEL66-1009まで）

参加園

- |           |         |
|-----------|---------|
| 永福保育園     | 朝日幼稚園   |
| 岡田保育園     | 朝来幼稚園   |
| さくら保育園    | 倉梯幼稚園   |
| タンポポハウス   | 舞鶴聖母幼稚園 |
| 平保育園      | 舞鶴幼稚園   |
| 東山保育園     |         |
| やまもも保育園   |         |
| 八雲保育園     |         |
| ルンビニ保育園   |         |
| うみべのもり保育所 |         |
| 中保育所      |         |
| 西乳児保育所    |         |



グループワーク(内容)

【事例】 5歳児 2月 「氷の実験」

前日の振り返りの話の中で、氷が話題となる。「冷凍庫に水を入れておくと氷になる」ことはよくわかっているが、①寒い戸外で水が氷になることは、より興味・関心をかきたてられたようだ。

保育者が、②中庭の手洗い場付近にペットボトルやプラスチック皿、バケツなどの容器を用意しておくと、子どもたちは③めいめいの容器に水を入れて帰った。

子どもたちは登園すると、③すぐにおおのの皿を見に行った。

④「やった。実験成功」

「わたしの氷厚いよ」

「ぼくのほうは、すごくきれい」

口ぐちに言いながら、友達のものとは比べたり、自分の氷を見入ったりしている。

⑤Sは手にした氷を太陽に گذاせて、「せんせい、水って手で持てるん知ってる？」と言う。

「えっ！」と私が聞き返すと、

Sは得意そうに

⑤「ほら氷を持っています。次は、手品で水にします」と、手の熱でぼたぼたとしずくを落とす氷を差し上げている。

⑥「すごい発見ですね」と私が言うと、彼女は⑦「すごい手品です」と言い返す。

私は、⑧「失礼しました。すごい水のマジックでした」と言う。

そばで聞いていたTは

⑨「ぼくももっとすごい手品してやる。ほら、顔がお化けになるぞお」

と手にした氷を顔の目の前にして突進してきた。

【グループワークの方法】

人数：5～6人 時間：約60分

(1) まずは、一人で事例の中から1～4の視点に基づいて読み取る。

1. 子どもの姿、思い
2. 保育者の関わり、意図、ねらい
3. 環境（意図的な環境設定）
4. 保育の中の学び、育ち

(2) 1～4の順番で意見を言う。その際に、理由も加えながら言う。

(3) 全員で事例を5領域でとらえてみる。どこの部分が、どの領域のどのねらいや内容に当たるのかを検討する。

(4) 全員で事例からの続きの保育を展開するとしたら…どんな環境を準備するか？どんな言葉をかけるか？を考える。

【グループワークのルール】

- ◎個々の意見を否定しない
- ◎全員が発言できるように

【グループワークでの主な内容】

※左記の事例の番号と下線ごとに整理しています。

- ①保育者のねらい、意図…子どもの興味・関心をより深めるために
- ②意図的な環境…保育者は子どもに、置く場所やいろいろな形の容器によって、氷のはり方の違いに気づくことも意識している
- ③子どもの思い…「こおるかな？」「どんな風にこおるのか」期待、予測
- ④子どもの姿、学び…予測し、結果を確かめる 色、形、厚さなどに気づく 友達の氷と比べる 観察する 言葉で表現する

⑤子どもの学び、思い…氷は熱によって溶け水になることを知っている。その科学的な現象を「水は手で持てる」「手品」という不思議さやファンタジーの世界で表現している

⑥保育者の関わり、意図…子どもに共感している、氷と水の科学的な変化の探求に向かうのか、手品という不思議な世界を楽しむのか、確かめるための言葉

⑦子どもの言葉、思い…氷が熱で溶ける「発見」ではないという子どもの思い

⑧保育者の関わり、意図…子どもの思いが科学的な探求ではなく、手品という不思議さを楽しむ方向に向かっていることがわかったので、間違いを謝り、新たに「マジック」という言葉で表現した

⑨子どもの言葉、思い、学び…「手品」「おばけになる」という不思議さおもしろさを楽しむ世界を友達と共有している、氷がレンズの役割を果たし、変化する科学的な現象を体験として知っている

◎水と氷の変化という科学的な現象を不思議さ、ファンタジーの世界で表現しているおもしろさがある。保育者は、科学的な気づきや発見に注目しがちだが、子どもは保育者の意図とはまた違う視点で、この遊びをとらえており、そこに保育者は気づき、子どもといっしょに楽しんでいる。  
◎この続きの遊びをするなら、その他の科学的な現象をマジックとして楽しんだり、氷を作ることをいろいろな容器や場所で試すなどの科学遊びとして楽しんだり、いろいろな展開がある。

## 乳幼児教育ビジョン講演会～乳幼児期に大切にしたいこと～を実施しました。

保育所・幼稚園の先生方の研修とあわせて、市民の皆さんに「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」や、乳幼児期の重要性、特徴、大切にしたいことなどを知っていただき、みんなで一緒に舞鶴の宝ものである子どもたちを育もうと講演会を開催しました。会場ではお子様連れのご家族の姿も見られ約160人の参加がありました。

日時 平成28年6月18日(土) 13:30～15:30  
場所 中総合会館 ホール  
講師 神戸大学大学院 准教授 北野幸子 氏  
(教育学博士、前舞鶴市幼児教育ビジョン策定懇話会会長)



参加園

岡田保育園	西乳児保育所
相愛保育園	朝日幼稚園
タンポポハウス	朝来幼稚園
なかすじ保育園	倉梯幼稚園
東山保育園	シオン幼稚園
八雲保育園	ひばり幼稚園
やまもも保育園	三鶴幼稚園
うみべのもり保育所	舞鶴幼稚園
中保育所	

「～子どもの気持ちを知ろうとすること～が乳幼児期に大人が大切にしなければならないこと」  
「感情と共に体験・経験を通して育つことが、生きる力の基盤になる」

～北野先生より～

◎舞鶴市の作ったビジョンは、大人がただ作ったものではなく、地域の中で次世代を育成していこうという画期的なもの。ビジョンを作ることで次世代育成のコミュニティが創生されつつある。

◎乳幼児期は、子ども自ら興味関心を持ったり、やりたい気持ちや探究心を起点とし、自分で考えやってみるといった、主体性を大切にしたい遊びを通じた学びが重要。

◎年齢に関わらず、発達に合わせた教育の保障が大事。教育のカギとなるのは先生の力量。洞察力が子どもの育ちに与える影響が大きい。乳幼児期の教育の重要性を共通認識としておくことが必要。

◎小学校以降の教育の前倒しが乳幼児期の教育にふさわしいというわけではなく、乳幼児期は、その発達に応じて、発達に合わせた方法がある。

◎2歳児は自己主張が強い。もっともよく使う言葉は「自分が」「ダメ」「いや」。その理由は、この頃になると身体の動きがしっかりしてきて、行きたい所へ行き、したいことができるようになる。それが自信になるので、「自分でしたい!」という思いを出すようになる。そういう時期は、人に言われてやることよりも、自分がやってみたいことをやった方が、子どもたちには経験としてふさわしい、というのが発達の理由。

◎動きの面では、乳幼児期はいろんな動きを体験し、その多様な動きが、その先の特定の動きをするための基礎となっていく。

◎運動遊びでも自分が「したい」と思ったものに取り組む方がこの時期の体験としてはふさわしい。子どもの気持ちを考えることが大切。

◎家庭教育と集団保育との違いは、「多様性に対する寛容性」にあり、(他の子の存在や他の子との遊びが)子どもの社会性を育てる。その中で知性も育っていく。

◎支援の必要な子どもこそ早くから専門的な教育が大切である。教育格差を生まないためにも、経済的に厳しい子にとって3歳までの集団保育を受けることが重要である。

◎日本でも乳幼児期の教育の質向上へ

の取り組みがいろんな所でスタートしている。去年4月に文部科学省の国立教育政策研究所で乳幼児期の教育専門のポストができた。8月には東大に発達保育実践政策学センターが、今年の4月には幼児教育研究センターができた。地方との研究拠点作りが日本の乳幼児教育の次のステップになる。

◎乳幼児期の教育で大切にしたいことは「発達に適した保育」。生れてからの期間が短いということは、個人による違いが大きく影響するということ。みんなで一斉に同じことをするのはではなく、子ども自身の個性に応じて一人ひとりの子どもの興味を大切にしたい教育を大事にしていきたい。

◎ただ遊んでいるのを見守っているだけではなく、どんな力をつけたいか、どんな学びを得ているか、それにはどんな材料(教材)を用意すれば良いかなど、保育者が見通しを持つことも大切になってくる。

◎専門職である保育者はこれらを理解し、子どもが主語になるような声かけも行える。

◎子どもが主体的になるには、安心感・信頼感が大切になり、自分の思いを受けとめてもらえるという安心感が、子どもの育ちの根幹になる。クラスが崩壊していたり、いじめのあるクラスでは子どもの力は伸びない。

◎クラスや地域が安心できる自分の大好きな場所であることが、自分を発揮できる、物・人への興味を広げられることへとつながる。それらが基本的な生活習慣、学習、社会性にもつながっていく。

◎このため、気持ちの育ちを乳幼児期には大事にしていく。乳幼児期の子どもは「耳」からだけでは学ばない。体験と気持ちが関わっていることでないと、子どもたちは自分のものにはできない。

◎基本的な生活習慣は、愛着の形成と基本的信頼感があること、大好きなモデルとなる人がいて、そのモデルと一緒に模倣しながら繰り返し体験していくことが大切になる。

◎愛着の形成、自尊心の有無が子どもの育ちの根底にある。子どもをしつける時は、子どもの誇りにつながるようにしなければ定着化しない。乳幼児期は感情に左右されやすい。良いイメージを持ちながらしつけていく。

◎主体性は選ぶところから。与えられたことを行うのではなく「自分から」ということが大切。小学校の新学習指導要領でも、アクティブラーニングという学び方が盛り込まれ、何を学んだかだけでなく「どのように学んだか」を大切にしている。

◎(目標への情熱や粘り強さ、社会性、自尊心など)非認知的能力を乳幼児期に育てていく。大きくなってからでは育ちにくい。与えられたこと、指示命令だけで蓄積された経験、分かった・分からないだけで育った子どもは知性の扉を開くことができない。また、いざこざの経験をさせてもらっていない子は、問題解決の力が育たない。自己主張のぶつかり合い、人との関わり方を感情と共に体験していくことから学んでいく。

◎子どもの気持ちを知ろうとすることが乳幼児期の子どもを育てるうえで、大人が大切にしなければならないこと。感情と共に体験・経験を通して育つことが、生きる力の基盤になる。大人の思いだけでなく、子どもの「やりたい」思いを大切にしていく。

◎乳幼児期の教育は、子どもの気持ち・興味関心を見とる洞察力がなければ行えない。そのために専門性が大切になり、保育の可視化をしていかなければならない。

◎乳幼児期の子どもの育ちは、小学校以降の学びの基となる大切なものである。そのことを広く知ってもらいたい。



平成28年度 第3号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成28年9月28日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

7月15日(金) 朝来幼稚園の公開保育を実施しました。

昨年度は、朝来小学校と共に保幼小連携の公開授業・保育を実施していただいた朝来幼稚園において、今年度保育を公開されました。園長先生が「子どもは体験する中で様々なことを知り、身につけていく、そして身につけた力を小・中学校、その先の将来へとつなげていく教育を目指している。しかし、実際の保育では、どのようなねらいを持って活動すればいいのか、どうすれば子どもの知的好奇心を引き出せるのか、子どもたち自身がやりたい、おもしろいと感じられる環境はどうすればいいのか、次の活動にどうつなげるのか、学びたい。」と挨拶されたように、保育を実践している先生方も参加した先生方も一体となってその場を共有し、学び合うことができました。

参加の皆さんには、保育の場面を切りとり記録していただき、公開園の皆さんにお返しするようにしています。記録を取ることや記録をもとに保育を語り合うことも研修の一環で大切な要素です。

参加園/校

- |           |         |
|-----------|---------|
| 永福保育園     | 朝来幼稚園   |
| 岡田保育園     | 池内幼稚園   |
| さくら保育園    | 倉梯幼稚園   |
| タンポポハウス   | 中舞鶴幼稚園  |
| 平保育園      | 舞鶴聖母幼稚園 |
| 東山保育園     | 舞鶴幼稚園   |
| 八雲保育園     |         |
| うみべのもり保育所 | 大浦小学校   |
| 中保育所      |         |
| 西乳児保育所    |         |

3歳児はもっと自由でよい。みんなでしなくては！と枠にはめようとしすぎたりしない方がよい。  
 4歳児は友だち同士でのイメージの共有が大切、5歳児には、協同的な遊びを意識してほしい。  
 ~神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生のコメントより~

<3歳児~うみごっこ>

いつも水があるところが乾いてうっすらと泥の層ができていた。いつもと違う泥の感触に興味を持ったり、いつものように樋から容器を転がしたり、それぞれの遊びを楽しんでいた。

北野先生より

◎3歳児はもっと自由でよい。保育者の中に完成品のモデルがありすぎたり、みんなでしなくては！と枠にはめようとしすぎたりしない方がよい。

◎予定していた通りではなかったからといって無理やり予定の環境にしなくてよい。それは環境構成の意味が違う。

◎今日はそんなに暑くないから水をはらずにいつもと違う環境の中で、子どもがどう遊ぶのか、何を感じるのか、保育者もいっしょになって楽しむとよい。

◎最初の方の泥の感触を足で確かめたり、同じ泥あそびにしても、あれしたい、これしたいという一人ひとりの気持ちは違うので、それを大事にしてほしい。



<4歳児~ふねごっこ>

ひたすら砂場に穴を掘って遊んでいた子どもたちの「船に見える」という言葉から始まったふねづくり。船の壁面には、隣にある赤土がよいことに気づき、さら砂をかけることでより固くなることから壁づくりを数人で楽しんでいた。船には、お風呂や台所があるという話から、この日は、赤土のところで料理を作る遊びが広がっていた。

北野先生より

◎4歳児は友だち同士でのイメージの共有が大切であり、このクラスの子どもたちはそれができている。

◎子ども同士の会話の中にも「ありがとう」など、良いコミュニケーションがたくさん見られ、保育者の姿が子どもに出ていていると感じた。

◎ふねづくりをしている中、お味噌汁を作っている子に対して保育者が「いいね」と肯定的に言っておられたのがよかった。

◎子どもたちが保育者の顔をうかがうような様子が一切なく、遊びにすごく集中している。

◎子どもたちの目線がモノへといき、体も動いている。自由度が大きい方が自然と視線や体が動いている。



<5歳児~シャボン玉遊び~>

大きいシャボン玉、割れないシャボン玉を作りたいというイメージを持って、グループごとにシャボン玉液を作っていた。家から持ってきた道具を使っているいろいろなシャボン玉を作ることを楽しんで、「地面に落ちて割れない」「棒を通して割れない」ことを発見している子もいた。

北野先生より

◎もう少し素材の内容などに違いがあってもよかった。

◎5歳児であれば、大きさ、量、数、形に着目する姿、また友だちと一緒に作るといったような姿が出てくると、さらによかった。

◎先生との関係性がよいこともあるが、子どもたちが「先生」と何度も呼んでいた。

◎5歳児には、協同的な遊びを意識してほしい。年齢+1人ほどの集団で、同じ遊びを楽しめるとよい。そのためには同じ好奇心・探究心を持っている子が集まれるように声かけをして、子どもたちをつないでいくことが大切である。

◎地面に落ちて割れないことに気づいている子と棒を通して割れないことに気づいている子をつなぐ。走って作っている子には、風の向きに気づいている子をつなぐなど、意識して関わるとよい。





## 公開保育カンファレンス



## 【朝の集会】

◎歌がとても良かった。ピアノを弾く先生、前に出る先生、横にいる先生と分かれており、子どもたちの声をしっかり拾っていた。

◎立って歌うことが大切であり、そういった基本がしっかりとできていた。

◎集会場面は大切。その中で、歌と絵本は必ず取り入れてほしい。

◎音楽と絵ボードに合わせて英語を言う活動では、活字ではなく、実物で覚えていくことが大切である。言語は、日常の会話で使わなければ獲得は難しい。

◎実体験・経験を伴わない学び（カードやドリル的なモノ）は意味がない。むしろ後の学習にマイナスを与えてしまうことがある。

◎外国の人を見ても怖くない、様々な国に親しみをもつことは大切だが、この活動（朝の集会場面での英語遊び）がそういった姿につながっているかはわからない。

◎6歳までの語彙数には、2、3千語～4万語と差があることがわかってきた。その差は大きくなっても縮まらないことから、6歳までに語彙を増やすことは大事ではないか。

## 【振り返り】

◎子ども同士の顔が見えるコの字型、円型がよい。

◎子ども同士でお互いの顔が見え、協同的な学びや、他者に関心が向くことにつながる

◎聞く力のプロセスは、先生と子どもの1対1→友達同士1対1→先生対子ども集団→子ども対子ども集団へと育っていく。

## 【指導案】

◎子どもの遊びや姿を領域ごとにまとめ

できたかどうかよりも、やってみたいという意欲、創意工夫や情意、何だろう、不思議だなあという気持ちをたくさん育てることが大切である  
～北野先生より～

る必要はなく、遊びの中のねらいとして意識することが大事。

◎シャボン玉遊びのプロセス、学びのプロセスを整理しておく必要がある。

- ・大きさ、量
- ・連続性
- ・風との関係性
- ・作製（作る、置く…）
- ・素材、分類、発想

◎行為目標や結果目標ではないものがねらいになることが大切である。

## 【保育者の関わり】

◎「それもいいね」「それもおもしろい」「そんなももあったね」など、保育者の子どもに対する肯定の言葉がすごく多いのもよかった。

◎結果ではなく、中身についての発言があるのがよい。

◎保育者が結果にこだわっていると、子どもに伝わり、子どもが萎縮してしまう。そうすると主体性や自主性が出てきにくい。

◎できたかどうかよりも、やってみたいという意欲、創意工夫や情意、何だろう、不思議だなあという気持ちをたくさん育てることが大切である。

◎「先生見てー」など、子どもたちから保育者への呼びかけが多いことから、保育者と子どもたちとの関係性がとてもよいことが伝わってくる。これを子ども同士の相互作用につなげられたらもっとよい。

## 【幼児保育で大切にしてほしいこと】

①体験・経験が基本であること。気持ちや必然性が大事。

◎実体験の中で五感を複数一緒に使うことが大切である。

②情意、知識・技術の習得、活用力・応用力、心情・意欲・態度を大切に育てる。

◎2歳で多い子は1日で7つの単語を習得する。これは豊かな体験から、感情が起点となり、経験として蓄積される。「おもしろそう」、「何でかな？」といった物への関心・

知りたいことへの関心、疑問など、主体性を育てていくように関わるのが大切である。

◎「できた?」「わかった?」など、結果のことを聞くのは避けるべきである。わからないこと、知らないことは素敵なことだと伝えてほしい。

③応答性・フレキシビリティであること。

◎保育には教科書やガイドがないからこそ、予測しないことを大切にしてほしい。手順通りにいかないことをむしろ歓迎する姿勢を持ってほしい。

◎子どもとの相互作用を大切にす。

◎環境も子どもたちと一緒に作る。

④発達に応じた保育をする。

## 【3歳】

◎自己主張が盛んな時期

◎予定していないことをした時その姿をどんでん認める。

◎“できた”よりも“やろうとした”ことを大切に受け止める。

◎待つ時間を多くしないことを意識する。

◎いざごの経験がない子は、いざごの対応能力が低い、だから、いざごをどんどん経験させてあげるべきである。

## 【4歳】

◎協同性や創意工夫が出てくる時期

◎実体に対しての興味を大切にす。

・「はい、では」のような言葉は手順通りにしようとするものであるため、発しない方がよい。

◎曜日は視覚支援があった方がわかりやすいので、カレンダーを見ながら話すようにするとよい。

## 【5歳】

◎協同的な学びの時期

◎興味を持っている内容が近い子ども同士をつなげるために、お互いのことに注目するような声かけが大切となる。

◎年齢+1人ほどの集団ができることを意識する。

7月14日(木) グループワーク、公開保育指導案についての検討を実施しました。

## グループワーク

前回同様グループ（6～7人×4グループ）にわかれて、事例の記録を元にグループワークを実施しました。

視点を定めるためのワークシートは、ドキュメンテーションを書く視点と同じでもあり、また、保育を記録する視点でもあります。今年度は新しい試みとして、公開保育の参加者に公開当日の遊びの場面を記録してもらっています。普段保育をしながら記録することは難しいので、これを機会に保育を記録することも知っていただければと思います

す。また、公開園の保育者にとってもその記録を見ることで、子どもの姿や興味・関心をより明確に知ることができます。

ぜひ、ワークシートを参考にして記録にチャレンジしてみてください。



## 参加園

永福保育園  
岡田保育園  
タンポポハウス  
平保育園  
東山保育園  
うみべのもり保育所  
中保育所  
西乳児保育所  
朝来幼稚園

講義 (部分)指導案について

子どもが今やっている遊び、子どもが今抱えている生活課題、子どもの今の発達の特徴、対人関係に関する課題などの子どもの姿から、なぜ、このねらいにするのか言えることが大事。～北野先生より～

部分指導案  
「タイトル」

1日時 平成 年 月 日(曜日)  
時 分～時 分

2対象児 年保育 歳児 組  
(男児 名 女児 名)

3子どもの姿  
<子どもの生活の特徴>

<発達の特徴>

<遊びの特徴>

4ねらい  
○  
○

5保育の内容

6内容選択の理由

【基本的な用語の整理】

◎全体的な計画  
・教育課程とは、入園してから卒園までの子どもの育ちの全体像を示している。  
・保育課程とは、教育の時間だけでなく、子どもがいる時間を指している。預かり保育の時間の教育をふくめた全体的な計画。養護を基盤としている。

◎指導計画とは、長期、短期に分かれる。全体的な計画よりも、季節、園、地域によって変わる部分がある。

◎長期：年間・月案、短期：週案・日案、全部含んでカリキュラムという。

【指導案を書くために】

◎日案をしっかり書くことが大事。子どもの姿から教育の計画を立てる。

◎構造的に考えることが大事。まずは、トレーニングする。

◎経験だけでは、保育の実践力があがっていかない。計画をちゃんと立て、保育を見直し、振り返ることが大事。

◎子どもたちの体験、経験が根っこにあり、子どもの気持ちを大事にする経験主義

カリキュラムだからこそ、根拠が子どもの姿にないといけない。(設定保育にしても)

◎子どもが、興味・関心を持つという子どもの事実からスタートする。

◎子どもが今やっている遊び、子どもが今抱えている生活課題、子どもの今の発達の特徴、対人関係に関する課題などの子どもの姿から、なぜ、このねらいにするのか言えることが大事。

◎日案、指導案、部分指導案を書くとき、何でこのねらいか、突き詰めて考えてほしい。

◎ねらいが明確にあり、内容選択の理由があることを言えるようになることが大事。それが乳幼児教育の醍醐味である。



「〇〇遊びを楽しむ」というねらいならば、保育者が何をもって、楽しむか、楽しまないかを判断するのか～ことば、行動、表情などを具体的に書く。～北野先生より～

7実施計画

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆…の準備しておく</li> <li>☆…の用意しておく(道具や素材の内容)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆…するグループをつくる</li> <li>☆…をする</li> <li>☆…に気付く</li> <li>☆…伝え合う</li> <li>☆…を共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆…しやすいよう声かけをする</li> <li>☆…するように促す</li> <li>☆…適宜援助する</li> <li>☆…と感じられるようにする</li> <li>☆…のための…の準備をする</li> <li>☆…しやすいように…と問いかける</li> <li>☆…伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆笑顔で関わっているか</li> <li>☆…な感じたことを言葉で友達に伝えているか</li> </ul>

【具体的な指導案の書き方】

◎ねらいが達成されるために、方略(教育学の専門用語)がある。方略を、二つのカテゴリーに分けて整理すると計画は立てやすい。

◎「保育者の援助の工夫」と「環境構成の工夫」の二つの分類項目を意識してほしい。

◎「保育者の援助の工夫」では、どのような働きかけ、言葉がけをするのか? どのように励まし、応援するのか? どのようなモデルを見せるのか? どのように子ども同士をつなげるのか? を意識する。生活課題は、子どもと一緒にする。

◎環境を通じた教育が大きなキーワードである。今の遊びの姿、生活の課題、発

達の特徴をふまえて、どのような教材を用意したり、どのような動線を考えたり、どのような環境を構成するのか、ということ是指導案を立てる上で重要である。(乳幼児教育の特徴)

◎評価の観点とねらいが同じになっている指導案があるが、評価の観点は、より具体的なもの「～あそびを楽しむ」「何をもって本当に楽しめていたのか」を保育者はどう評価するのか? 指導案を書く時点から、頭の中で構想しておく。

◎保育者は、同じ時間、同じ現場にいても見抜けるものが違う。それは、観点があるかないかによって変わってくる。観点を持っておくとよい。

◎「〇〇遊びを楽しむ」というねらいなら

ば、保育者が何をもって、楽しむか、楽しまないかを判断するのか。抽象的なねらいを書くが、その時に何をもって評価、判断するのか、ことば、行動、表情などを具体的に書く。

◎「〇〇のような表情をして」「〇〇にもくもくと没頭している」という行動をもって「楽しむ」と評価する。

◎領域ごとのねらいは、体験、経験主義的なカリキュラムなので一つの遊びの中に、複数の領域のねらいが埋め込まれている。

◎保育の現場は、ライブで流れて消えていく。子どもの状態を把握する時、どれだけ予測の引き出しを持っているかによって、流れていく現象を見落としにくくなる。経験とともに引き出しは増えていく。

平成28年7月8日(金)城南会館において、乳幼児教育ビジョン説明会を実施しました。ビジョンに書かれている「主体性」とはどのようなことを、園での様子を通して紹介しました。実際に保育している保育者から、具体的な子どもの姿や場面を写真と言葉でお伝えしました。

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成28年9月28日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

8月17日(水)保幼小中連携研修会を行いました



【午前の部】

1. 時間 9:00-11:30
2. 会場 舞鶴市政記念館ホール
3. 主催 舞鶴市、舞鶴市教育委員会

4. 目的 0歳～15歳までの切れ目ない質の高い教育において、保育所・幼稚園、小学校、中学校でどのような連携が大切であるか、その方向性について共通理解を図る。
5. 対象者 保育所・幼稚園、小・中学校の校(園)長または教頭及び教諭・保育士
6. 内容
  - (1)開会あいさつ 舞鶴市教育委員会 教育長
  - (2)趣旨説明 舞鶴市教育委員会 指導理事
  - (3)講演「学びと育ちをつなげる連携教育～遊び込みから学び込みへ 記録と発信の重要性～」  
鳴門教育大学大学院 木下 光二 教授
  - (4)質疑応答
  - (5)閉会あいさつ 舞鶴市健康・子ども部 部長

【午後の部】

1. 時間 13:00-16:30
2. 会場 舞鶴市政記念館ホール
3. 主催 舞鶴市、舞鶴市教育委員会、舞鶴市小学校教育研究会生活科部

4. 目的 保幼小連携の意義や目的について理解を深める。連携協力園・校での生活科の授業づくりを通して、お互いの理解を深めながらそれぞれの「ねらい」を持った連携活動について研修する。
5. 対象者 今年度連携活動を担当している保育所・幼稚園 年長児担任教諭・保育士、小学校1年(2年)担任教諭、小学校教育研究会生活科部員 等
6. 内容
  - (1)開会あいさつ 舞鶴市教育委員会 指導担当課長
  - (2)趣旨説明 舞鶴市教育委員会 指導主事
  - (3)講義「子どもの主体性が発揮される活動づくりのポイント」  
鳴門教育大学大学院 木下 光二 教授
  - (4)グループワーク 説明:生活科部長  
生活科「たのしい秋いっぱい」での交流活動づくり
  - (5)報告・交流 (6)指導・助言
  - (7)閉会あいさつ 舞鶴市小学校教育研究会生活科部顧問



参加園・校

<保育園>

永福、岡田、さくら、昭光、相愛、平、タンポポハウス、なかすじ、東山、八雲、やまもも、ルンビニ、うみべのもり、中、西乳児

<幼稚園> 朝来、倉梯、シオン、橘、中舞鶴、ひばり、舞鶴聖母、三鶴、森の子ら、舞鶴

<小学校> 朝来、余内、池内、大浦、岡田、倉梯、倉梯第二、志楽、新舞鶴、高野、中筋、中舞鶴、福井、三笠、明倫、由良川、吉原、与保呂

<中学校> 青葉、加佐、白糸、城南、城北、若浦、和田

参加園・校

<保育園>

永福、岡田、さくら、昭光、相愛、平、タンポポハウス、なかすじ、東山、八雲、やまもも、ルンビニ、うみべのもり、中

<幼稚園> 朝来、池内、倉梯、中舞鶴、ひばり、舞鶴聖母、三鶴、舞鶴

<小学校> 朝来、余内、池内、大浦、倉梯、倉梯第二、志楽、新舞鶴、高野、中筋、中舞鶴、福井、三笠、明倫、由良川、吉原、与保呂

講演「学びと育ちをつなげる連携教育～遊び込みから学び込みへ 記録と発信の重要性～」

幼児期から児童期へつなげたいものは「夢中になって遊び込む力」、それが「学び込める力」となる。カリキュラムで本来伝えることは、「遊びの中の学び」…記録と考察により、遊びと学びがつながる。  
 ～木下先生のコメントより～

たくさんの写真を使って事例を示し具体的にお話いただいたことで、参加者からも「とても分かりやすかった。」「ポイントになる点が見えた。」「幼児がこんなに遊びの中から多くの学びを得ていることに驚いた。この学びを小中学校でもつなぐ必要がある。」といった感想が寄せられました。

～講演内容～

<舞鶴市の連携研修>

由良川小学校と八雲保育園の連携活動「チューリップの球根を植えよう」

一緒に球根を植えるという簡単な活動であったが、保育園側も小学校側もとても楽しそうに連携を行い、学び合っていた。先生が楽しめるものでないと、させられる連携は意味がない。

<乳幼児教育の現状と課題>

◎日本の課題: 関係性の希薄さ

…人と関われない、交われない

→子どもがまだ柔らかい乳幼児期から中学校ぐらいまでに、関わることの楽しさと大切さを学ぶのが連携活動。

◎乳幼児教育: 遊んでいるようにしか見え

ないが、遊びの中で学んでいることがたくさんある。→見えないとつながらない…遊びと学びをいかに捉えて可視化するかが大事。

<OECDの調査と新しい学力観>

◎OECDの学力調査…近年日本は数値化しにくい学力(自己肯定感、学習意欲等)が低迷。

◎OECDでは今後世界で子どもたちが身に付けなければならない力として3つのキーコンピテンシーを示している。

「相互作用的に道具を用いる」

「自立的に活動する」

「異質な集団で交わる」

↳ 正に連携はこれにあたる。いつもとは違う集団で交流することで学び合う。

- ・争いを処理し解決する
- ・協力する、チームで働く
- ・他人と良い関係をつくる

例) 保育や連携活動でスコップが人数分ない →譲り合って使うことを学ぶ

<フィンランドの教育>

◎フィンランドは国を豊かにするために教育にお

金をかけた。

～2枚の写真から分かる、フィンランドの教育～  
 ①何気ない日常の風景写真。親子と女性が道を歩いている。ここから分かることは何か？  
 →親子が手をつないで歩いている。フィンランドの親子等を見ているとほとんどが手をつないで歩いている。子どもが大切にされていることが見える。日本では手をつなげずに歩いている場面をよく見る。

自分が講師として保育所・幼稚園に行った時、朝の登園風景を見るようにしている。登園時に親子がどれくらい手をつないでいるかで、保育の質が分かる。どれだけ子どもが大切にされているか、乳幼児期が豊かであること、小学校・中学校期も安定して豊かに過ごせる。

②空港での写真。日本に比べると職員の数が少なく殺風景。

→日本のように丁寧なアナウンスはなく、各自が気をつけて案内板を見て乗る。つまり情報は自分でつかみ取るものという環境で育つ。分からないことがあってもすぐに聞かず自分で解決しなければならぬ。日本は親切すぎる。自分で考え

(1ページから続く)  
る必要のない環境になっている。

<学習指導要領の改訂>

◎論点整理が示され、今後育成すべき資質・能力として3つの柱が示されて、乳幼児期から中高までつらぬく形になっている。

資質・能力の要素 未来を切り拓く力 3つの柱

1. 「何を知っているか。何ができるか。」  
(個別の知識・技能)
2. 「知っていること・できることをどう使うか。」  
(思考力・判断力・表現力等)
3. 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。」(主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性等)

◎改訂の視点:「何ができるようになるか」

「何を学ぶか」「どのように学ぶか」

→能動的に学ぶアクティブ・ラーニングの視点による不断の授業改善、学習評価の充実、カリキュラム・マネジメントの充実が求められている。

◎子どもがチャイムが鳴っても、もっと調べたいと言って続けること…学校では授業形態もあり難しいが、幼児教育では、その時間が終わっても続けることはよくある。

◎文部科学省の田村視学官は、「幼児教育はアクティブ・ラーニングそのものであると言える。子どもが思いや願いに基づいて、主体的に学ぶ姿を大切にしてほしい。」と話している。

**幼児教育はアクティブ・ラーニングそのもの**であり、それを小学校・中学校にも入れていこうという改訂である。

<連携教育を推進するために 幼児教育の理解>

幼児期から児童(生徒)期につなげるもの

→いかに遊び、夢中になっているか。

「遊び込んでいる」とこと「遊ばされている」とことは違う。遊びについても同じ。

◎中学校から小学校、小学校から幼児期の教育が見えているか?

例) 幼小連携活動ではさみを使っている1年生の女の子を見て…

小学校教諭:「まだまだ使えていないな。」

幼稚園教諭:「こんなにもできるようになった。」※幼稚園時代の担任

→評価感が違う。小中でも、中学校に入ってきた子がテストで30点をとった場合、小学校の時に20点だった子なら10点も上がっている。ほめるべきところ。

お互いに訪れ「どのように育ってきたのか、どのように育っていくのか」保幼と小、小と中…両方で同じものを見ることが連携・接続の重要な部分。

「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ  
→連携のキーワード

例1 写真「わたげおうろいます」  
(わたげをうえています)

5歳4カ月の子が書いて立てた看板の写真

◎この子はまだひらがなを習っていないが、伝えたくてがんばって書いたもの。幼児期に文字に出合っている。間違った文字や鏡文字もあるがそれでいい。文字は誰かに何かを伝えたいから書くもの。その経験が大事。遊びだけれど学びがある。

→(学び)自然との関わり、5歳児の「文字の」使用、伝える必然性、表現する喜び

◎学びに向かう力10項目のほとんどが

り、それを保育者としてしっかり捉えて発信している。

10項目:健康な心と体/自立心/協同性/道徳性・規範意識の芽生え/社会生活との関わり/思考力の芽生え/自然との関わり・生命尊重/数量・図形・文字等への関心・感覚/言葉による伝え合い/豊かな感性と表現

◎今のスタートカリキュラムは、適応指導になってしまっているものも多いが、カリキュラムで保育所・幼稚園から小学校に本来伝えることは「遊びの中の学び」である。

例2 お兄ちゃんの長さか!

「このほりをつなぐひもは自分で切るんだよ」「どれくらい切るの?」「自分の身長より少し長くてね。」「……。」しばらく考えた後で、「そうか、お兄ちゃんの長さか!」と言って自分でひもを切った。「どれどれ、先生と比べてみようか」と切ったひもを私の背と比べてみると、私より少し長くなっていた。すると、「先生より高くない」という返事が返ってきた。

→長さの感覚を学んでいる。分かりやすく伝えることが大事。

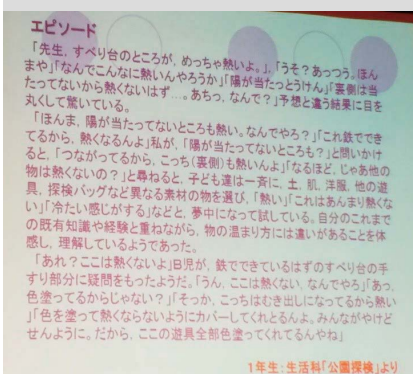
例3 恐竜博物館

恐竜が好きなお兄さんが、たくさん描いた恐竜の絵を使用して恐竜博物館ごっこを始めた時の子ども同士の会話より

「では、恐竜博物館をはじめます。」「これは何という恐竜でしょう?」「ティラノザウルスです。」「トリケラトプスもいます。」「空を飛ばす恐竜は誰でしょう?」「わかりません?」「プテラドンです。翼竜ともいいます。」「どうして恐竜が空を飛ぶんですか?」「それは歩いて遠くへ行くのがめんどくさいからです。」「どうして遠くへ行くんですか?」「それは、エサを探すために決まっているんじゃないですか。」「どうして椰子の木があるんですか?」「草食の恐竜が食べるんです。」「椰子の実のは堅くないんですか?」「恐竜の歯はすごいんです。」「どうして富士山があるんですか?」「椰子の木を育てるためにあります…」(学び)言語能力 コミュニケーション能力

◎子ども自身が遊びをつくっている。小学生以上なら自分で遊びをつくる。遊びの中で、子どもたちの会話も豊かになる。やどりを通して言語能力やコミュニケーション能力等が育っている。

例4 1年生:生活科「公園探検」より



◎担任が出来事を記録として切り取らないと消えてしまう。幼保での活動だけでなく、生活科も記録で見えやすくなる。活動あつて学びなしなどと言われたが、実は豊かな学びがある。

<学び合う遊び・教育(授業)づくり>

- ・環境を通して学ぶ
- ・学び合うための環境づくり
- ・出会いの生まれる環境づくり

◎接続カリキュラムは5歳児と1年生とがつかないが、連携は、何歳と何年生とでもやった方がよい。

例1 学校探検オリエンテーリング

・「ここが〇〇室」と案内するものではなく、宝もの見つけにしたい。1年生がクイズを作って、その中から面白いものを選んでワークシートを作り、オリエンテーリングしてまわった。

校庭にある池では、「こいが何匹いるか?」というクイズ

◎こいは動くので数えられない。しかし、「手をたたくと集まってくるから、何か所かに分かれて手をたたいて集まったこいを数える。」など、各グループで様々な数え方が繰り広げられた。

◎知恵を出し合っている。発達の違う者同士が出会って、一緒に考えると新しい発想が生まれる。

◎正解を求めているのではない。こいの数はどうでもいい。楽しい時間と空間を共有している。

◎年長児には小学校のイメージが入る。小学校は楽しいところ、お兄さんお姉さんを信頼しているんだ等。安心感があると自己発揮できる。

◎人事異動で初めての学校に行く時は大人でも怖い。しかし一度行ったことがあると、またそこに知っている人がいると安心する。

◎連携のおかげで、年長児は安心して小学校生活が始められる。小学校から中学校も一緒  
◎普通は3か月で学ぶことが、連携活動を通して安心した状態で入学してくると1か月で学べる。

例2 ザリガニとり…手をつないで歩くだけで関係性ができる。大勢でするので糸が絡まって泣いたのが1年生で、大丈夫だよととってあげたのが5歳児ということもある。小学生が自分はこれが上手いと思っていたが、5歳児でそれが上手い子がいたりすると刺激を受ける。

◎時々、異なる集団で連携するとよい。それは縦だけでなく、保育園が他の園と、小学校同士など横の連携も、縦も横も連携は大事。

◎連携というと、学校の先生からは「忙しいからできない。」という答えが返ってくることもある。しかし、やってみて教育効果が分かれば取り組める。忙しい学校などない。

◎小中学校の先生は、忙しくても国語は飛ばさない。それは教育課程に位置づけているから。連携活動も教育課程に位置づけるべき。

例3 カレンダー作り

◎1年生は算数で20までの数を習う。連携活動でカレンダー作りをした。30までの数になる。

◎保育所や幼稚園も登園シールを園で貼っているからカレンダーは分かる。1年間のカレンダーのサンプルを前に貼り、好きな月を作った

◎25日の次にまた24日があったり、同じ日が2つあったり、45日まであるカレンダーもあったが、それでいい。直せばいいだけ。

◎楽しい時間と空間を共有しながら数を学んでいる。準備の要らない算数の授業を幼稚園の遊戯室でやっているだけ。

◎くら雲の本番を幼稚園の遊戯室で

(2 ページから続く)

やった。幼稚園の子がお客さんになってくれるので、小学生がはりきる。これもそのまま行ってやるだけのこと。保育所・幼稚園から小学校に来てもらってもいい。「縄跳びするの、したい子おいで。」というように。

◎5歳児と1年生とでペアをつくり、1年間そのペアで通す。回を重ねるごとに関係性が変わっていく。

ペアでザリガニつくりをした時に、相手がお転婆な5歳児であった1年生の男の子が「ペアを変えてほしい。」と言ってきたが、変えなかった。

その大変さが、その子を育てる。彼の成長の糧になる。

このペアも秋のカレンダー作りの頃には仲良くなっている。「仲良くなれ！」でも「仲良くしなさい！」でもない。仲良くなれる場をいかにつくるかである。

◎連携活動で何をやるかは、あまり重要ではない。大事なのは一緒にやって何を学んでいるか。その可視化が次につながる。やりっぱなしはよくない。

◎活動に必要なペットボトルを集めた時、数えろと言わなくても、子どもたちは数えだす。もっと作りたい、明日もやりたいとなる。ペットボトルが足りなかったら、子どもたちが自分たちで考えて、保護者会でペットボトルが必要だと協力を呼びかけるプレゼンをした。

◎中学生が保育所へ行く保育実習もやっている。活動の場を見ると中学生の人間性が分かる。園の子どもたちは、安心できる中学生の所へ集まる。もちろん最初集まらなかった中学生も何度も通い、園児と仲良くなる場を設けることで仲良くなる。

交流後の中学生の感想文より…「劇の練習で色を塗る時はおとなしかった園児達が、配役決めの日にはうまく決まらなかったり、セリフの練習も言う通りに動いてくれなかったりと苦労したが、そのことがとても良い勉強になった。」

◎お茶の水女子大学では、附属の幼稚園・小学校・中学校で幼小中連携を実践している。

#### <遊びを見つめる>

シャボン玉遊び 2枚の写真から見える違い

①うちわの骨組みを液に付けシャボン玉遊びをしている。

②赤茶色になったシャボン玉の液を持っている。

①は、おそらく先生が用意したであろう道具を用いた遊び。②は、子どもが自ら液に赤土を入れて工夫している。

◎昨年7月に岡田保育園と小学校の連携活動が保育園で行われた。シャボン玉で遊んでいたが、保育園の女の子がシャボン玉に園庭の赤土を混ぜていた。なぜそうしたのか聞いてみると「強くなりたいから」とのことであった。

◎実際に強くなるかどうかではなく、自ら工夫していること、そこが素晴らしい。

◎8月に保幼小連携研修で再度保育園に行く、今度は、シャボン玉の液を子どもが自分たちで作っていた。液を作るには800ccの水がいるが、600ccしか量れないピーカーが置いてある。どうするかと見ていたら、ピーカー1杯の600ccの水を入れて、そこに200ccを足していた。

◎保育を変えることは難しいことだが、保育園で朝に自由な遊びの時間を導入したところ、保護者から「最近何か変えました？」と聞かれたという。その保護者からは「子どもが朝、楽しそうに出かけていくから。」と言われたとのこと。設定で決まっていた遊びから、自分で選べる遊びに変わったことで、朝の遊びが楽しみになり、意欲的に登園するようになったもの。

◎(シャボン玉の保育士の記録より)記録は、事実をありのまま書くことが大切。「楽しそうに」とか「いきいき」とは書いていない。どんな表情をしていたか、どんなつぶやきがあったか、を書く。

◎エピソード記録とその考察により、遊びと学びがつながる。このシャボン玉の話でいうと、2つの違ったものを混ぜるということ。幼児期の遊びの中の学びが分かって、初めて小学校以降の学びにつながる。

#### <遊びを育てる>

色水遊び 2枚の写真から見える違い

①先生が机の上に色が出る紙等たくさん材料を全部揃えて置き、色水遊びをしている。

②子どもたちが園庭で積んできた花など道具や材料を自分で用意して色水遊びをしている。

◎鳴門教育大学附属幼稚園では、何も置いてないテーブルがあり、道具や材料は子どもが自分で取ってきて遊びをつくる。ある園では誰一人園庭に咲いている花を取りに行かなかった。①では先生が作った環境では遊んでいるが、園の環境には働きかけていない。

子が環境に働きかけるようにする。春先や慣れない頃は、先生が用意することもあるが、段々引いていく。小学校や中学校もそうであってほしい。自分で学びをつくる＝アクティブ・ラーニング。

◎乳幼児教育の充実が大事。充実したものと充実したものが合わさることが大事。連携も大事だが、その前のそれぞれの質が大事。

#### ～質疑より～

Q. 先日、朝来幼稚園の活動を見に行ったら。非認知能力の育ちが見られた。シャボン玉遊びをしていたが、シャボン玉の膜の中に物が通ると思った子がいて、いろいろ試していた。細い棒は通ったが、尖ったものは通らないなど気付いて、遊び込んでいた。後でみんなに表現する場面もあって、他の子も納得していた。

次に中学校に行ったら、4人で協働学習をしていた。考えをまとめ、発表し、共有していた。

力をつけていく過程が同じであると感じた。問題の小学校はどうか、遊び込むから学び込む土台作りが、小学校の役割である。小学校・中学校が保育所・幼稚園を見に行くことが必要である。その素晴らしさ、大切にしているものなどを見取るための視点について教えてほしい。

A. 最初は見えにくいので、保育所・幼稚園の先生に解説してもらいながら見ると良い。捉え方は人によって違うので、小学校の先生が、保育を見ながら記録・メモを取り、それを参考にお互いで話し合うと見えてくる。

ポイントとしては、自己発揮しているか。子どもが遊ばされるのではなく、遊んでいるか。周りの環

境と一体的に見て、遊ばされているようなら議論する。小学校の先生は小学校の見方でいいので、意見を言う。それを保育所・幼稚園側が学ぶことも大事。率直に話し合うことが大事。その繰り返しで、同じ視点になってくる。

そのためにも一回でも多く無理なく足を運ぶこと。自分は、音楽は専科の先生がいたので、そういった空き時間を利用して幼稚園を見に行っていた。日常的に足を運び、子どもや先生から学ぶことが大事。

豊かな学びをしているんだと思って見ると、そうでないのとは違う。よく見ること、足しげく通うことが大事。

Q. 全市上げて子どもを主体とした保育に取り組んでいる。アクティブ・ラーニングという言葉も出ているが、主体性を求めるほど、小学校でちゃんと話が聞けるのかというような声が保護者や小学校の先生から出る。保育現場では分かっているが、他者にどう伝えればよいか。

A. 子どもが夢中になっているところを写真に撮って、言語化して保護者に伝える、プリントして小学校に渡すなど、可視化することが大事。遊び込んでいることと、無茶苦茶やっていることとは違う。心配なのは、無茶苦茶やっている方。遊び込んでいる中には、必ずルールが発生しているので心配ない。この遊びでこんな学びが生まれているということを伝える。保育記録も小学校に送るとよい。自分は、CD-ROMに焼いてもいい、担任しているこの子は、0歳の時、こうしていたのか…と思って見ている。

遊び込めている状態は素敵なことなので、自信を持って発信してほしい。保護者会の時に映像を見せて伝えると良い。自分は毎週1回15分程やっていた。厳しかったが見ておかないと伝えられないので、見る目が育つ。伝えて初めて分かってもらえることもある。

Q. 生活科の可視化については、担任1人では難しいが、やっていかないと次に繋がらず、可視化することが接続につながると思った。接続を考えた時にどういう視点で見ればよいか。

A. 接続カリキュラムを作るときに、園のらしさ、「うちは言葉を育てる。」なら言葉で小学校とつながるなど、接続の焦点を絞るとよい。つながらないものはないが、全体を作るのは大変なので、視点を絞って見ていくことがポイント。

Q. 学びに向かう力は幼児期に育まれている。スタートカリキュラムが適応指導になっているという指摘に共感した。生活科を切り口として、遊びの中の学びから自覚的学びにつなげたいと思っているが、ともしれば設定して成果物を求める形となってしまう危惧がある。。生活科の意義をもう一度教えてほしい。

A. 生活科は「探究」があるかどうか。夢中になって探究しているかどうか。生活科自身がスタートカリキュラムである。生活科の原点に戻ることが大事で、刺激を与えてくれるのが乳幼児教育である。自分は、子どもの素敵だなと思うところを記録し、文と写真に残していた。蓄積が大事。生活科は教科なのでテストで測ることも仕方ないが、活動の中の子どものつづきなどを把握することが必要。

講義「子どもの主体性が発揮される活動づくりのポイント」

◎連携と接続の違い

子ども同士・先生同士の交流…連携  
教育課程をつなげる…接続

◎熱心な人がいて連携が進んでいるというだけでは、人事異動等により人が変わると連携が消えてしまう。教育課程に位置づけ、人が変わっても継続されるようにすることが必要。

◎連携から接続へ、両方とも大事。実践(連携)がないと接続(理論)にならない。

◎幼児期の遊び込みを学び込みにつなげよう。

◎連携活動で、並んで挨拶することがあるが、3歳児だけだったり1年生だけだったりの活動ならそんなセレモニーはしない。1年生が作った

名刺を5歳児に渡しているところもあったが、その時間を一緒に遊ぶ方が仲良くなる。子ども同士が出会って名刺交換なんて普通(日常)はしない。子ども同士は遊んで仲良くなる。

◎互恵性…同じ活動をしていても、5歳児と1年生のねらいは違う。それぞれのねらいを達成すること。

◎何が育ったかを写真やビデオ、記録などとしておくよ。今年はこのことをしたと来年の先生に渡せる。

◎ミニミニ運動会という連携活動があった。園や学校の運動会が終わった時期に開催していたが、元々やっている運動会のリレー等の時に

一緒にやればよい。教育課程の中で無理なく一緒にやればよい。

◎小学生が用意して幼児に遊んでもらうような活動もあった。その時間、小学生は図工の時間なのに、製作ではなくお世話をしている。それなら迷路と一緒に作った方が楽しい。一緒に作れば5歳児らしい発想も出てくる。お世話はいらぬ。幼児に教えてあげようという発想でなくてよい。

◎校区の周囲の環境が活かせる活動が良い。小川、神社、田…地域・園・校の特徴を活かす。

◎これなら両方楽しくやれる、先生方が早くこれをやりたい、と思える活動をしてほしい。枠にはまらず、はじけていい。

グループワーク 生活科「楽しい秋いっぱい」での交流活動づくり



～発表より～ 活動案の例

<①構成:保育園、幼稚園、小学校>

「さつま芋パーティー」10月下旬、学校  
◎1組が幼稚園と、2組が保育園と活動  
◎1学期に芋植え。年間計画を立て、夏休みに協議を実施。

◎つながり活動のねらい:対象物と関わる、人との関わり。本時のねらい:小学校…数理的な処理、調理活動、におい、感触。知恵を出し合い分け方を考える。年長…色・形・におい・焼いた時の変化に気づく、一緒にめあてを達成する。  
◎学校で1年生がさつま芋を洗っているところへ園児が入る。校長先生も参加し、子どもたちが芋に興味をわくような話をする。

◎さつま芋を切って焼く。量やどう切るかは子どもが考えて行う。ホットプレートで焼いてバターをのせ、その変化をみる。

◎材料を用意するが、子どもが自分たちで考えて話し合い、生活経験の中で試行錯誤しながら進めるよう、おおまかに置いておき、自分たちで持ってくるようにする。

<②保育園、小学校>

「あきのおとみつけた!」11月、学校  
◎互恵性が大事だと学んだので、先生達が用意した材料で子どもが楽器を作るのではもったいないと思った。

→一緒に学校近くの神社に秋見つけに行く。小学校から草花の紹介をしたいので、小学生はグループで見つけたものを図鑑等で調べたりして秋見つけに臨みたい。

◎1回目(夏の水遊び)のペアで行動する。1回目緊張していたが、秋の活動を楽しみにしている。

<③保育園、幼稚園、小学校>

「秋のものであつと驚くピタゴラスイッチ!!」  
◎秋の散歩と一緒に秋見つけに行く。小学校近くの山へ図鑑を持っていき、グループで探して調べる。たくさん秋のもので遊んだ後、園と小学校がどうしていきたいか考える。

◎動くものに子どもの興味が大きいため、意図的に本などを置いて仕掛けていきたい。何を作るか、転がすためにはどうしたらいいかなど、あえて少し難しいものに挑戦する。完成を求めるのではなく、やってみる。後日につなげてよい。あつと驚くところってどこかを子どもから報告、先生達は子どもたちがこんなことに気づいていたという報告をする。

◎保育士と教師とで思いが違うところもあるが、話し合いをするうちに、それいいですねとなっていき、いい活動案につながるので、良い機会であった。

<④保育園2、幼稚園2、小学校>

「あきのなかよしマーケットをひらこう」10-11月、小学校、クラスごとに各園と連携  
◎校区が広いので、各園のなじみの深いところでコースに分かれ秋見つけを行う。

◎子ども同士でどんなお店をしたいかを話し、何が必要かも考えてから出かける。

◎それぞれでお店の準備をしていき、秋のマーケットは小学校の体育館で全員で行う。同じ種類の店でも、使っているものや作り方が違うので、配置などに配慮してコースの違いにも気づけるようにしたい。

◎あのお店に行きたかったという気持ちから、自分たちで他のお店のものをその後作ってみたりすることにつながるよ。

◎全体会の進行は、小学校教諭がするが、振り返りの場面は、幼稚園や保育所の先生も出て、両方から気づきを発表してまとめたい。

◎実態や大切にしていることを知れたうえで計画にあたることができ、次につながる遊びを考えられたことは良かった。

<⑤幼稚園2、小学校>

◎クラスごとに各園と  
◎2学期に秋見つけを一緒にして、おもちゃを作るなど遊んで、まとめをする

◎ペアのクラスと園ごとに違う場所で行うことにより、まとめの時に違いを比較したい。

◎秋見つけでは、観点をしばって行うようネイチャーゲームビンゴを実施。ちくちくするもの、ふわふわするもの、においのするものといった項目が書かれたカードを持って、秋見つけをする。どんなものを見つけたらいいかが分かる。ちくちくするものでも、自分はこういうものを見つけたが、この子はこういうものをなど、違いがあつてよい。見つけた項目にシールを貼ることで達成感も得ら

れる。見つけたものでその後の遊びにつながるよ。

◎幼稚園の普段の活動の流れを聞くと、楽しいという気持ちを分断せずに続けていく、小学校はチャイムで途切れる、と大きく違う部分を感じた。幼稚園の方が十分に楽しんでいると思った。小学校でその気持ちをどうやってつなげるか話し合った。



～講評:木下先生より～

◎先生方がこうやって長時間話し合ったこと、二つの活動案を一緒に考えたことが宝。ぜひ続けてほしい。時間を上手に見つけて、放課後ちょっと集まって考えると連携は進む。

◎カリキュラムマネジメントが必要。PDCA、今日P(Plan)をした。次はD(Do)、そしてCAのチェックをして改善することが大事。

◎実践をやって課題が見つかることが素晴らしい。見直しをもう一回やれば、いいことができる。失敗してもいい。遊びを忘れてはいけない。保幼と小学校とで時間の感覚が違うという意見があつたが、チャイムが鳴っても子どもたちがやりたいとなつたら、それは連携ができていているということ

◎話し合いだけをするというのは、5歳児と1年生とでは難しい。作りながら相談する方が発達にはふさわしい。

◎舞鶴市といえば赤れんが。もみじやかえで秋の表現ができないか。どんぐりをつぶして焼いてピザにしたらどうか?おいしくないので小麦粉も混ぜて。子どもたちが「あ～やってみたい!」と思うことが大事。今日は教科書を見て活動案を作ったが、発想が大事。

◎次回は中舞鶴の実践公開。中舞鶴らしいものを見つけてほしい。苦労すると仲良くなる。秋の活動が楽しみである。

<保幼小連携 公開授業・保育研修>

平成28年11月15日(火)  
中保育所、中舞鶴幼稚園、中舞鶴小学校

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年1月26日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

9月13日(火) うみべのもり保育所の公開保育を実施しました。

3つの公立保育所が統合し、創設2年目を迎えたうみべのもり保育所において公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生よりご指導をいただきました。

新しい環境の下、新たな保育、そして文化を築いていく途上の保育所として、公開保育にチャレンジし、皆様から多くのご意見をいただくことができました。あいにくの雨模様でしたが、雨が降った後ならではの泥団子作りやどろんこ遊び、参加者も巻き込んだお化け屋敷ごっこ、スライムや泡を使った感触遊びなど、各年齢に合わせた活動が展開され、その年齢発達に合わせたねらいが設定されていました。

また、「舞鶴市の乳幼児教育ビジョン推進事業～質向上研修～」に関心を示していただいた研究者や乳幼児教育に関わる方々が視察され、貴重なご意見をいただく機会となりました。皆様からいただいたご意見も詳しくご紹介したいと思います。

参加園/校

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
タンポポハウス	朝来幼稚園
平保育園	橋幼稚園
なかすじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
やまもも保育園	三笠小学校
八雲保育園	
ルンビニ保育園	

質問の構造化をはかる。すぐに答えられる質問「やってみてどうだった？」を聞く次に、少し考えて答えられる質問「どうしてやってみたと思ったの？」と聞く

～北野先生のコメントより～



<0歳児～安心できる居場所、応答的なかわり～>

発達に合わせたおもちゃ(引っ張る、入れる、出す)や滑り台、つかまり立ちできる柵等の環境が整えられていました。自分で好きな遊びを選んでじっくりと楽しむことができ、保育

者はその遊びや子どもの思いに応答的に関わる姿が見られました。

北野先生より

◎ゆったりとした空間に一人に1個ずつのおもちゃがあり、環境が活かされていた。

◎遊びたいおもちゃがあり、自分の居場所があるので、落ち着いて穏やかであり、子どもたちが安定していた。

◎一人ひとりの遊びに保育者が応答的に関わっていた。子どもの(保育者の顔を見て伝えたいという)意志、気持ちが育っている。(言葉の獲得においてとても大切)

◎パラレルトーク(子どもの行動や気持ちを言語化する)を増やすとよい。子どもの発した「あーあー」の言葉を言語化する。

◎保育者の顔を子どもが見たら表情豊かに応答するとよい。

<1歳児～スライム、ままごと遊び～>

スライム(感触遊び)、ままごと、スティック遊び、運動遊び等の環境が整えられ、それぞれ自分で好きな遊びを選んで楽しんでいました。子どもが大人に顔を向け、視線を合わせる姿が見られ、伝えたい気持ちや意思が育っていることが感じられました。

北野先生より

◎運動遊び：起伏や、高い低い(0歳児クラスにあったような)があるとよい。足の裏で感じられる感覚もあるといい。(アルミホイルでくるんで冷たさなど足ざわりの違いを感じる)

◎ままごと：ままごとのキッチンの場所を壁側に変えてみてはどうか。ままごとをして向こう側が見えると落ち着かない。いろいろやってみて子どもと楽しんでほしい。

◎スライム：スライムをした後、保育者の顔を見る。普段から丁寧に関わっているのがよくわかる。子どもが何かした後、保育者は顔を見る。しゃべってなくてもいっぱい気持ちを伝えようとしている。汚れることも気にしない、制限がないのがよかった。



<2歳児～ごっこ遊び～>

泡遊び(感触遊び)、ままごとやお店等のごっこ遊び、玩具(電車、ブロック)での遊びをそれぞれが楽しんでいました。

北野先生より

◎ごっこ遊びでは、役になりきって言葉を使ったり、立場をわかってのやりとりをしたりと、成長が感じられた。

◎保育者の肯定語、受け入れ語が多かった。

<4歳児～振り返り～>

振り返り場面では、子どもたちが話を聞こうという姿勢で、自分の思いも伝えようとする気持ちが感じられました。

北野先生より

◎子どもの名前がたくさん出てきて、よく話している。

◎実物を見せて話をすすめるのはよかった。

◎振り返りで話すトピックスは一つに絞るとよい。子ども同士で会話が続くようになっていくとよい。



<5歳児～おばけ屋敷ごっこ、振り返り～>

鏡を使った遊びから光と影の関係性に興味を持ち、暗い場所でライトをつけ、手や体の影が映る遊びを楽しむ中で、3歳児が夏祭りから継続していたおばけ屋敷ごっこがつながり、異年齢での遊びとなっていました。おばけ役の人、お客さんを案内する人、おみやげを渡す人、お化け屋敷を修理する人等いろいろな役割を分担し、楽しんでいました。



北野先生より

◎5歳児は、いろいろな素材を使って工夫すること、協同的な遊びを意識してほしい。

◎振り返りでは、対保育者ではなく子ども同士となるように意識する。

◎質問の構造化をはかる。まずは、すぐに答えられる質問「やってみてどうだった？」を聞く。次に、少し考えて答えられる質問「どうしてやってみたと思ったの？」と聞く。その中で、他の子が、「〇〇ちゃんは、□□しようと思ったんちゃう?」「△△したらいいと思う」等、意見が出せるとよい。

公開保育カンファレンス

子どもの姿から、環境構成や関わり方を考えてほしい

～北野先生より～

【環境】

◎0、1歳児の環境では、自分の居場所があることが大事である。少し、隅の方に一人だけの狭い空間があるとよい。そこでじっくりと遊べるのではないかな。  
 ◎2歳児でも、ままごとコーナーは囲われており、安心できる場所となっていた。また、イメージしやすいように冷蔵庫やエプロン、お弁当箱等を配置するなどの工夫が見られた。  
 ◎3歳児は遊戯室を使って遊んでいたが、遊戯室とのつながりが部屋から見えない。子どもの視線にロッカーがあり、邪魔している。何をして遊んでいるのか、つながりを意識して境界を構成する。ロッカーを廊下へ出してもよいのでは？  
 ◎遊戯室の音響が悪い。響く。聞こえにくいので子どもが大きな声を出してしまう。良い音環境は大事。

【保育者の関わり】

◎特に乳児は、応答的な関わりを大切にすること。  
 ☆パラレルトーク（子どもの行動を言語化すること）：子どもが主語になるように「○○ちゃんは～したいんだね」「○○くんが～してるね」  
 ☆子どもの発した言葉「あ～」を言語化：「きれいだね」「動いてるね」  
 ☆共感する言葉：「あったね、よかったね」「おもしろいね」「かなしいね」「いやだったんだね」「○○しようと思ったんだね」  
 ◎1歳児が運動遊びのところへ他のおもちゃを持って行った場面があった。保育者は「あっちで遊ぼうね。」と元の場所へ返そうとしたが、なぜ、そこに持ってきたのか、なぜ、そこに来たかったのかを

考えてほしい。

◎「一人占めしたかったのか」「一人でゆっくりできる場所を求めていたのか」子どもの姿から、環境構成や関わり方を考えてほしい。  
 ◎スティック遊びは、テーブルを囲んでするのではなく、個々の空間が必要かもしれない。  
 ◎2歳児のごっこ遊びでは、役になりきって言葉を使ったり、立場をわかってのやりとりがあった。保育者の肯定語、受け入れ語が多かった。  
 ◎3歳児の保育者は言葉や表情、全身をつかって遊んでいた。年齢が低ければ低いほど、保育者が見本やモデルになりいっしょに遊ぶことが必要である。

視察の皆さんより

環境構成は、「いつでも、どこでも、何度でも」が大事

～溝邊先生より～

【相馬靖明先生～和泉短期大学准教授～】  
**場の使い方、環境を見直す**  
**～今日の遊びの姿から明日の環境構成へとつなげる～**

◎指導案の中に遊戯室の遊びがなかったので、もう一度場の使い方や環境構成を見直す。  
 ◎5歳児：樋で高低差をつけて泥ボールを転がす遊び⇒明日の遊びの場の設定をどうして作って行くか？  
 ◎4歳児：丸い水たまり、とろとろねばる土 葉っぱのケーキ？魚？見立てる⇒明日の遊びの場の設定をどうして作って行くか？  
 ◎3歳児の指導案にある「紙遊び」は単なる紙遊びではなく、作ったモノを使って遊ぶ、何かになるために作って見立てて遊ぶモノである。

【伊藤美佳先生～東洋大学講師、お茶の水女子大学大学院～】

**0～2歳児は、素材との関わりを大切に！**  
 ◎0歳児が、雨、水を感じ、手や足でさわっていた。保育者は、「冷たいね」等の言葉をかけていた。  
 座りこんでお尻で感じている姿もあった。  
 ◎1歳児が体全体で感触を楽しむ姿や手や足で楽しむ姿が見られた。  
 ◎どちらも保育者が止めてしまう場面があり、残念だった。  
 ◎2歳児の指導案の中に素材の感じ方、違い等の評価の観点が少ないように感じた。見立て遊びややりとり中心の指導案になっていたの、素材の変化や不思議さを感じ、試すことも入れてほしい。

【田島大輔先生～お茶の水女子大学こども園～】

◎3歳児：廊下、遊戯室、部屋をどう使うか？場所、人、ものとの関係性アクセスする環境構成にする。  
 ◎デイリー、生活の流れをどう作るか？トイレや水分補給の時間をどう取るか？  
 ◎2、3歳のつながりをどうするのか？  
 ◎振り返りのスタイルは、その子どもにとってどうなのか？保育者のねらい重視なのか？みんなで作ることの意味はあるのか？

【木村明子先生～保育・教育関連の本の著者～】

◎五感を使っている子どもの姿が見られた。  
 ◎子どもからの視点で見ようとする保育者の姿も感じられた。  
 ◎遊戯室の音が響きやすい。保育者の声、子どもの声、ともにどのように響き伝え合えるかが大事ではないかと思う。可能であれば天井に吸音材をつけるとよいのではないかな。  
 ◎大きな園舎内外の見取り図を手に、そこに子どもたちの様子～遊びの様子をメモしていくと全体が「保育の俯瞰図」となるのではないかな。

【中西エリナ先生～保育講師～】

◎保育者が意識して、考えて声をかけている。次につながる言葉「新しいあそびだね」「おもしろいね」をかけられ、子どもは誇らしげにまた遊び始める。  
 ◎同じものと同じ視点で気持ちよく見ることができた。  
 ◎粘土のボールと樋遊び：割れるボール、割れないボールを一人で試している場面と、みんなで早く転がそうとする場面、ゆっくり転がすことを楽しむ場面が見られた。同じ遊びでもいろいろな工夫が感じられた。  
 ◎収納する場所が遊びの切り替えにもなり、交流の場にもなっていると感じた。  
 ◎振り返り：もっと子どものおもしろい発言を受け止めるとよい。

【溝邊和成先生～兵庫教育大学大学院教授～】

環境構成は、「いつでも、どこでも、何度でも」が大事

◎小学校から見て、5歳の力・光の遊びの場面：子「緑色になった」先生「なんで？」「他のはどうなってる？」子「他のはならん」との会話をした後に友達に見せて説明していく姿が見られた。まさに、サイエンスの芽生えである。  
 ◎乳幼児期に体験をいっぱいしてほしい。小学校の準備ではない。  
 ◎子どもが発見すること：子「大発見だ」先生「すごい発見だね」と、子どもの言葉を丁寧に受け止めていた。  
 ◎思考していく、発見していく＝芽生えは乳幼児期にある。

視察にお越しいただいた諸先生方、多くの学びをいただき、ありがとうございました。





## 9月12日 ドキュメンテーション グループワーク



4つのグループ(1グループ6~7人)に分かれて、ドキュメンテーション(0、2、3、4歳児)を元にグループワークを実施しました。視点を定めるためのワークシートは、ドキュメンテーションを書く視点と同じでもあり、園へ持ち帰って活用していただけたらと思います。また、今回は、遊び(保育)を発達の視点でとらえるために保育所保育指針から「第2章子どもの

発達」を抜粋し、年齢発達を意識して検討していただきました。それぞれのグループで活発な意見交換が行われました。

視察に来ていただいた先生方からも貴重なご意見をいただき、今後ドキュメンテーションを書いていく上で大切な視点を学ぶこともできました。

## 参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
タンポポハウス	朝来幼稚園
平保育園	舞鶴聖母幼稚園
なかすじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
やまもも保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	

## グループワーク(助言より)

「できた」「できない」ではなく、体験・経験の中で親しみ、技術を獲得したというふうによく書くとよい。  
～北野先生より～

【北野先生へ指導・助言へ】

◎子どもの姿、会話、行動と書き手の解釈は分けて書く。

◎保護者には、事実と解釈が分かれて見えるほうがより伝わる。

◎「できた」「できない」ではなく、体験・経験の中で親しみ、技術を獲得したというふうによく書くとよい。

◎時系列で、育ちのプロセスを記述する。

◎ドキュメンテーションの中に含まれるべき要素

- ・時系列的視点
- ・発達の要素
- ・学びの要素
- ・育ちの見通し
- ・保育者の工夫
- ・5領域との関わり
- ・教育的配慮
- ・道具との関わり

◎乳幼児教育は、学びに向かう力、心情・意欲・態度を育てている。○○で思考力が育っている。○○で協同性が育っている。というように、事実に基づいた子どもの姿を書くようにし、その説明の仕方に慣れていくとよい。

<0歳のドキュメンテーションに対して>

◎保育をする際に配慮したことをもっと書くべきである。

◎活動のねらいを発達に合ったものにしていくことが重要である。

◎五感をどのように使っているかを記述していく。

◎この時期「繰り返し」することの意味も教育的観点から保護者に発信していく。

<1、2歳児のドキュメンテーションに対して>

◎試行錯誤しながら体験、経験的に学ぶことが大事。

◎保育者が意図して関わったことを書いていく。

◎試したり、考えたり、大切にしていることを入れるとよい

◎道具との関わりや物を媒体とした子ども同士の交流を書く。

◎1、2歳の集団保育の意味が書かれているとよい。

◎一緒に体験経験し、楽しかった、よかったということが、後の他者への思いやりにつながる…というように、発達の見通しも

入れていくとよい。

<3歳のドキュメンテーションに対して>

◎集団の醍醐味、友達と遊ぶ意味をいれられるとよい。

◎3歳の模倣の特徴、遊びの変化と展開、発達の視点を加えるとよい

◎保育者の工夫や環境を遠慮せず書いていく。

<4歳児のドキュメンテーションに対して>

◎経験的に育った姿、育ってほしい姿を分けて書く。

◎“こんなふうで育つ”経験、体験を大事にしていることを書いた上で、経験とともに育った姿であれば、得た知識、技術を書いてよい。

◎子ども一人一人の視点を追うことも大切。

◎思考力、判断力、表現力等の基礎を乳幼児期で育て、小学校以降の知識と技術、活用力、応用力につながっていく。乳幼児期に育てたい力をイメージしながら保育をしていくことが大事。

子どもの遊びのどこにフォーカスを当てるのか。

どの部分を一番伝えたいかという視点で場面を決めるとよい。

～相馬先生より～

【相馬靖明先生】

◎子どもの遊びのどこにフォーカスを当てるのか。どの部分を一番伝えたいかという視点で場面を決めるとよい。

◎誰か一人にフォーカスをあててドキュメンテーションを作成すると、その子がどんな学びやとらえ方をしているのかが見えてくる。

◎個にばらした記録から編集をすることも大切である。

【木村明子先生】

◎ドキュメンテーションを外向けに発信

する際は、園名、クラス名、園児数が書かれているとよい。

◎子どものしぐさや様子、発話(事実のこと)と先生が推察している子どもの頭の中でのこと、これらの表現を分けると情動が追える。

◎子どもが言葉を発していない時、子どもの写真に吹き出しをつけると集中している時には“無”になるであろう。そこは大事な空っぽの吹き出しである。その集中している時間を読み取り、書くことで保護者に伝わるのではないか。

【中西エリナ先生】

◎全体を引いて見て広い視点で追ったドキュメンテーションにするより、小さく分けて、一部分を追うとよい。

◎できるようになったことにフォーカスを置くと、こうならなければいけないの…と保護者がとらえてしまう。できないことを指摘するようなことにもなりかねないので、気をつけたい。

◎遊びのプロセスを追っているの、子どもの学びを切り取る文章にするとよいと感じた。

## 指導案

◎遊びのねらいの立て方は、

子どもの姿

(現在子どもが興味を持っていること)

→発達・課題(つけてほしい力)

→ねらい

へと子どもの姿と遊びのねらいをリンクさせていく。

◎保育を組み立てる順番としては、

①子どもの姿 ②ねらい ③評価の観点

④教材、環境、準備 ⑤実践 ⑥評価

◎評価の観点は、子どものどんな姿にねら

いの達成を見取るのかを具体的に書く

ことが大切。子どもの姿から評価の観点をつくる。

◎上記の観点を部分指導案(30分~40分)を立てることが、構造的に保育を考えることにつながる。

平成28年度 第6号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年1月26日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

10月21日 タンポポハウスの公開保育を実施しました。



昨年に引き続きタンポポハウスにおいて公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授北野幸子先生よりご指導をいただきました。

昨年同様いろいろな素材が準備され、子どもたちがそれぞれイメージしたものを作って楽しむ姿があり、更に絵具等を使って染め遊びや色を塗って楽しむ姿がありました。また、1、2歳児クラスでは、寒天や小麦粉、紙粘土などを使った感触遊びを楽しみながら、保育者とやりとりしたり、見立てて遊んだりする姿が見られました。

環境の構成、空間（広さ、位置など）の使い方、保育者の遊びへの見通しなど多くの学びある公開保育となりました。

参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
昭光保育園	
タンポポハウス	倉梯幼稚園
平保育園	三鶴幼稚園
なかすじ保育園	
東山保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	

描くこと、作ることが使うことに段々とつながっていくことが大事である

塗る楽しさだけで終わらない、作る楽しさで終わらないことも大事 ~北野先生のコメントより~

<1、2歳児～感触遊び～>

寒天は、いろいろな色があり透明なコップに入れて、ジュースやアイスクリームに見立てて遊ぶ姿がありました。おもちゃのガス台のところ何かに見立てて遊ぶ表情は真剣そのものでした。どんぐりを片栗粉粘土に混ぜたら…と自分なりに考えたことをやってみようとする姿もありました。

北野先生より

- ◎やりたいことがあると集中している。反対にやりたいことがなくなったら（遊びが）終わってしまう。保育者が子どもが集中していることに気付いていることに意味がある。
- ◎集中しやすい空間ではあるが、人数を考えるともう少し広い方がよい。
- ◎少し意識して子どもの言葉に対し保育者が「モグモグおいしいね～」などの言葉をかけるとよい。



<3、4、5歳児～段ボールでの遊び～>

数人の子どもたちが、段ボールで自分たちの作りたいものをイメージして作ろうとしていました。5歳児の部屋では、ベッドや病院など作ろうと段ボールで工夫する姿が見られました。

北野先生より

- ◎段ボールは居心地よく、よい素材。
- ◎段ボールで病院を作ったりいろいろな発想が見られた。ひとつひとつの距離が近すぎるので、もう少し空間があればと感じた。そういう意味でもどどん外に出れば広がると思う。
- ◎ひとつの部屋でしてしまうとどうしても小さくなってしまう。外でやると開放的になって動きもダイナミックになり発想も豊かになるのではないかな。
- ◎芝生の上に段ボールを置いたり、土の方にも置いたりすると大きな段ボールを使うこともでき、病院とか家とか機能も明確に区別が付き、見立てもイメージも広がるのではないかな。



<3、4、5歳児～絵の具遊び～>

自分なりにイメージを持ち、絵具を使って段ボールに色を塗ったり、色水を作って染め遊びを楽しんだりしていました。

北野先生より

- ◎描くこと、作ることが使うことに段々とつながっていくことが大事である。塗る楽しさだけで終わらない、作る楽しさで終わらないことも大事。
- ◎感触遊びから、作って機能みたいなものを想定しながら使えるようになってほしい。
- ◎見立てごっこ（病院や家、ご飯食べる場所）ともっとつながるとよい。



## 公開保育カンファレンス

空間を狭くすれば子どもがよく見えるというものではないので、  
空間と機能の使い方を考えるとよい

～北野先生より～

## 【保育者の関わり】

◎保育者自身の空間や素材の使い方、遊び方がまじめなので、決まりごとは事前の予測でもっと少なくしていてもいいかもしれない。

◎遊びは“こうしなければならない”“こうして遊ぶ”と決まっているのではなく、子どもがどう遊ぶか、どう使うかを見て考えていく。選択の余地をつくっておく。

◎保育者の予測と違うことを子どもが見つけたら、それに対してどう広げてあげるかを考える。(ライブの中でどれだけ拾ってあげられるか)

◎保育者自身が「今日は楽しかった」と思えるように楽しむことも大事である。保育者が楽しむ姿を見て子どもはまねをする。

## 【環境：空間、機能】

◎空間を狭くすれば子どもがよく見えるというものではないので、空間と機能の使い方を考えるとよい。

◎子どもの行動を制限しすぎてしまうと、外に出ていないと中で走り回るなど反動になってしまう可能性がある。



◎空間が途切れていると遊びが続きにくいので、つながりを意識した環境を設定する。

◎遊びをつなげるためには、片付けずに置いておく空間、明日も続きができる環境も必要である。

◎体育館とか大きなホールとかでする時と小さな部屋でする時とでは、全然遊びの展開が違ってくる。活動に応じて場所を選ぶ必要がある。

◎道具は出してきて使うのか、置いてあるのを使うのか、子どもがどう使っているか見て環境構成をするとよい。

## 10月20日 ドキュメンテーション グループワーク

4つのグループ(1グループ6～8人)に分かれて、ドキュメンテーション(0、2、4、5歳児)を元にグループワークを実施しました。今回も、遊び(保育)を発達の視点でとらえるために保育所保育指針から「第2章子どもの発達」を抜粋し、年齢発達を意識してもらうようにしました。見る視点を定めるためのワークシートを活用しながら意見交換し、更にドキュメンテーションを書いた保育者もグループワークに参加したことで、より具体的な議論を展開することができました。

書いた保育者もグループワークに参加した保育者も、お互いに学びのあるグループワークになりました。ドキュメンテーションを提供して下さった皆様ありがとうございました。

## 参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
昭光保育園	西乳児保育所
さくら保育園	橘幼稚園
タンポポハウス	舞鶴聖母幼稚園
平保育園	
なかすじ保育園	
東山保育園	
八雲保育園	
ルンビニ保育園	



「〇〇ちゃんは今〇〇しているんだね」子どもが主語の話は多弁でいい  
自分と違う解釈・判断を知ることが、自分の解釈・判断を作る基礎となる  
～講評 北野先生より～

## 【質問①】

「異年齢活動のドキュメンテーションで発達の部分を書くとうすと難しい。どうすればいいの？」

◎保育とは現象。絞り込む視点を持ってドキュメンテーションを書くことが大事。その時に一番伝えたいことを絞り込むことが大切。

◎保育は「3歳は3歳だけ」と年齢で隔離しない方がいい。4、5歳が離れている園舎に行ったことがあるが、見ての学びが少ない。

◎同じ〇〇遊びの中に3～5歳がいることもある。例えば、憧れ・模倣の対象として5歳児の姿を書く。そして、その年齢の育ちにポイントを当て、視点を定め、整理をする。

◎0、1歳は生まれてからの期間で0歳の大きい方と1歳の小さい方の発達が同じくらいのこともある。

## 【質問②】

「どこまで保育士が介入しているのか？」

ここまで言葉かけをして手助けしているのか？」

◎プロジェクト型保育をやっていく上で、言い過ぎてはいけない。でも、何も言わなくていいの？よいわけではない。

◎この子達は何でこの遊びが楽しいのか？洞察する。没頭して遊ぶ姿とつまみ食いの遊びの姿の違いは何か。続く遊びを観察して、そのおもしろさを知ろうとする時、多弁であってもいい。

◎「〇〇ちゃんは今〇〇しているんだね」子どもが主語の話は多弁でいい。◎スタートがどっちか？自分か、子どもか？「子どもが」本当にやりたいと思っているのか。子どもの気持ちの洞察をする。

◎ただ黙って見守るだけでは、育ちは出てこない。例えば0歳児が「カランカラン」という音が鳴っておもしろいと感じている。「おもしろい」とは言葉では言わないが、その気持ちを洞察することが大事。

◎何に興味を持っているのか、事例を提示していくこともよい。これもある、あれもある、こうかもしれない。漠然と持っている興味・関心を言語化する。自分自身も楽しむことで見えてくるかもしれない。押し

付けにならないようにしながら事例・アイデアを提示していく。

【ドキュメンテーションを書くために】

◎「事実と解釈を分けて書く」会話・行為と解釈を分けるトレーニングをする。

◎言葉、動き(事実)は議論の余地が少ない。解釈は議論の余地が広い。

◎事実に関してクリアに書く。受けとめ方は保護者に委ねる。判断に関しても同じこと。

◎何をどの順番に書くかを意識すると読みやすい文章になる。

◎実践を元にして語る。振り返ることを楽しんで欲しい。自分と違う解釈・判断を知ることが、自分の解釈・判断を作る基礎となる。



指導案について

遊びを目的化するのではなく、遊びは手段であり、経験である  
～北野先生より～

◎指導案を使って園内研修をするとよい。他園の先生も使ってほしい。例えば、「ねらい」の部分の隠しておいて、「ねらい」までの文章を読んで、自分だったらどんなねらいを立てるか？  
◎今こんな姿があるからこんな活動、こんなねらいにする。また、ねらいと保育者の配慮や関わりはどれだけあるのか。  
◎1日保育していたら、(予想される)子どもの姿はいくらでも書ける。でも、そこは、ねらいを意識して書く。  
◎反省や振り返りをする時、評価の観点やねらいに基づいて振り返る。テーマ・項目を絞り込み、あれもこれも入れない。  
◎絞り込むことで間口が狭くなり、議論が深まる。いろんな援助があるが、それが的確か？それは「ねらい」に沿っているかどうかで判断がしやすくなる。

◎評価の観点を書くことで、それが保育をする時どこに残っていて関わり方が変わる。  
◎遊びは目的なのか、手段なのか。**遊びを目的化するのではなく、遊びは手段であり、経験である。その遊びを通して、どんな気持ちを持つか？どんな経験をするか？(遊び=経験主義の教育)**。与えられた経験なのか、自らつかみとった経験なのか、遊びの中にどんな育ちがあるのかを意識する。  
◎「〇〇遊びについて苦手な子が多かった。」という記述があった。与えられた遊びととらえられがち。そもそも遊びの選択は、何を意図してその遊びがあるのか、遊びを通して何が育って欲しいのかを意識して書く。  
◎「〇〇遊びを楽しむ」だけでは遊びが

目的化しているように読めてしまう。その遊びを通して何が育って欲しいのかを考える。  
◎なぜ、その遊びをしているのか？発達や育ちからこういう遊びをしているのか、子どもたちの情意がのっている遊びだからなのか、子どもの姿をよく見る。  
◎言語化は難しいけれど、頑張っ書いてほしい。



10月28日 第1回 保幼小接続カリキュラム策定会議を開催しました。

『舞鶴市教育振興大綱』の基本理念「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」のためには、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携は欠かせません。小学校から中学校への連携については、『小中一貫教育標準カリキュラム』が策定され、取り組みが進められています。保育所・幼稚園、小学校の連携については、『乳幼児教育ビジョン』基本方針のひとつでもある「2 保育所・幼稚園、小学校、中学校の連携の充実」においても、特に「(2) 乳幼児期の学びと育ちをつなぐ連携活動の充実」が重要と考えています。

日時：平成28年10月28日(金) 15:30～17:30  
場所：市役所 中会議室

内容：○策定に向けて経過、全体説明  
○乳幼児教育ビジョン説明  
○小中一貫教育標準カリキュラム説明  
○講義「改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針と次期学習指導要領の内容について」  
兵庫教育大学大学院 溝邊和成先生  
○意見交換

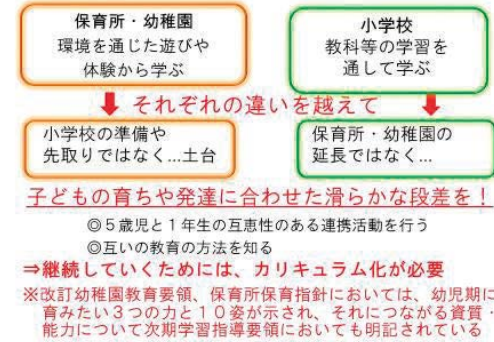
そこで、年長児と1年生が年間を通じて連携活動が展開されるよう、また、教師と保育者が互いに学び合えるよう『舞鶴市保幼小接続カリキュラム』を作成し、各園・校に広めていきたいと考えています。

策定メンバー

区分	所属	役職等	氏名
学識経験者	兵庫教育大学大学院	教授	溝邊 和成(会長)
私立保育園 (舞鶴市民間 保育園連盟)	永福保育園	園長	森 宏昭
	岡田保育園	園長	北川 三和子
	東山保育園	保育士	堀江 智美
	さくら保育園	保育士	山本 倫子
私立幼稚園 (舞鶴市私立 幼稚園協会)	朝来幼稚園	園長	畠中 好野
	三鶴幼稚園	園長	岩江 吾郎
	橋幼稚園	幼稚園教諭	松本 多恵子
	ひばり幼稚園	幼稚園教諭	佐藤 みのり
公立保育所	中保育所	所長	緒方 睦子
	中保育所	保育士	藤村 万紀
公立幼稚園	舞鶴幼稚園	園長	椋本 有加里
小学校	由良川小学校	校長	岡本 明生(副会長)
	高野小学校	教諭	井ノ口美津子
	吉原小学校	教諭	高峰 真実

※私立保育園、幼稚園の各園長より代表者を選出いただきました

策定の主旨



カリキュラムのイメージ



## 10月29日 乳幼児教育ビジョン講演会「幼児期から小学校へ～学びを育む環境～」を実施しました

6月に引き続き乳幼児教育ビジョンを多くの方に知っていただくために、保育所・幼稚園の先生をはじめ、子育て支援、放課後児童クラブの関係者や市民約100名のご参加をいただき、講演会を実施しました。

今回は、乳幼児期から小・中学校…更に家庭や地域への連携を中心にしながら兵庫教育大学大学院教授 溝邊和成先生に講演していただき、これから未来に向かう子どもたちにどんな力をつけていくべきか、乳幼児期、児童期それぞれの教育のあり方についても方向性を示していただきました。

日時：平成28年10月29日（土）13：30～15：30

場所：舞鶴市商工観光センター4F展示交流室

講演 「幼児期から小学校へ～学びを育む環境～」

講師 兵庫教育大学大学院 教授 溝邊和成氏

（舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議会長）

## 参加園／校

岡田保育園	朝来幼稚園
相愛保育園	池内幼稚園
昭光保育園	シオン幼稚園
東山保育園	森の子ら幼稚園
やまもも保育園	大浦小学校
ルンビニ保育園	高野小学校
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

## 講演より

◎今10歳の子どもが20歳になった時、どんな仕事があるのか、ロボット、機械化、3Dプリンター、自動運転車等により今ある仕事がなくなっていくと言われている。

◎今ある技術を学んでも役に立たないかもしれない…「〇〇になりたい」と言っても将来職業としてないかもしれない…このような世界で今の子どもたちはどんな力をつけていくべきか？

・生きて働く知識・技能  
・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力

・学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等

【子どもの外側からの支援】

◎「学習指導要領」改訂の方向性  
・「何ができるようにするか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」

・アクティブラーニング（主体的な学び、対話的な学び、深い学び）

◎幼稚園教育要領（保育所保育指針）改訂の方向性

・遊びを通しての総合的な指導⇒環境を通して行う教育

・幼児期の終わりまでに育てほしい力  
①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の基礎⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量・図形・文字等への関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性

◎それぞれの教育課程の接続がまだ十分とは言えない。

◎乳幼児の生活体験も不足している。

◎すべての施設ですべての子どもに質の高い教育が求められている。

【子どもの内側からの支援】

◎子どもの身近な環境が大切

・物的：日頃よく目にするもの、よく触るもの、これまでに使ったことのあるもの

・心理的：安心、安全、気持ちのよいもの、好きなもの

◎子どもが持っている道具（子どもの身に備わっているもの）

【例】朝顔の葉を見て…「ざらざらしてる」「ほんとや」触って対象を理解し表現している⇒触感、認証、共通理解、協同

【例】朝顔の青いふくらみを見て…「トマトできてる」過去に見た青いトマトを知っていて重ね合わせている⇒諸感覚（五感）、身体感覚、表現

◎子どもの遊びは、まさに主体的で能動的なプロセスと結果から成り立っている。（会得、体得、納得）

◎環境を構成する

・先生と子どもの知恵比べ…先生が準備した環境通りに遊ばない。

・子どもがどのように見立てて自分のものにしていくか（学びの芽生え）

【例】泥だんご…泥水から土を取り出してみる 土へのアクション⇒構成物をとらえる、におい、粒、大きさ、色で分類する、特性をとらえる。

◎地域（特に高齢者）とつなぐ

子どもから高齢者、高齢者から子ども、高齢者も学ぶ、お互いに学ぶ。

## 子どもの「からだ」と「かお」を観る 子どもの「言葉」を観る 子どもの「行為」を観る

～溝邊先生講演より～

## 【先生の綴り箱】

◎綴り箱とは…子どもの表現（言葉・姿を集積した子どもの学びの履歴のこと。

◎保護者と一緒に書くもの、先生の書いたもの、子どもが書いたもの等子どもの記録になるようなものや、ラーニングスケッチを取り入れた指導案などいろいろな方法がある。

## 【何を書くのか】

◎子どもの「からだ」と「かお」を観る

・思考・感情を表す「からだ」と「かお」：頭をたてにふる、頭を抱える、肩をすぼめる、万歳する、飛び跳ねる、スキップする、抱きつく、眉をひそめる、聞き耳をたてる、目をぱちくりさせる…

◎子どもの「言葉」を観る

①理由付け、論理の展開：接続詞「だから」「でも」…

②対象認知：形容詞「大きい」「丸い」「嬉しい」「楽しい」…

③現象説明：動詞「～になった」「できた」「～になる」…

④オノマトペによる表現：「つるつる」「さらさら」「ガツンと」…

⑤例え、比喻表現：「～のような」「まるで～みたい」…

◎子どもの「行為」を観る

・対象理解、仮説検証、理解定着、納得

・行為の連続性＝思考の連続性：繰り返す、やり直す

・距離感・親密度：親しんでいる、遠い、近い

◎子どもを理解するためのスキル

①なってみる、同じことをする（思考の順序の確認）

②子どもの背後から視線をたどる

③横からみる

④カメラとメモを持つ（思考系列の記録）

⑤言葉を繰り返す（思考の意味確認）

⑥体に触れてみる（思考、表現時の情的高揚の確認）

⑦言葉をかける（心を寄せる：「なぜ」「それで」で確認）

◎子どもは人と交わることによるのみ人として育つ。

◎学び、育ちのデザイン（カリキュラム）は子どもの事実から始まる。

◎出会い、つながりの用意こそ教育、保育の行為の原点である。



平成28年度 第7号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年2月3日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

11月10日 さくら保育園の公開保育を実施しました。

さくら保育園において、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただき、初めての公開保育を実施しました。

今年度、保育の見直しをされ、玩具や室内環境を整え、保育者主導の与える保育ではなく、子どもを主体とした保育を職員一丸となって進めてこられました。

子ども自身が“こんなことやってみたい”“つくりたい”と思った時に、想像や発想が形にしていけるようにと様々な素材や道具が豊富に準備され、環境に自ら関わりたくなる工夫がたくさんされていました。

子どもたちがそれぞれ遊びのイメージを持ち、思いを伝え合いながら遊び込む姿が印象的でした。

参加者に作った物を見せ、自信満々に説明してくれたり、ごっこ遊びにお客さんとして招いてくれたり、参加者も子どもの発想で常に変化していく、魅力ある遊びに引き込まれていいたように感じました。これらの遊びが今後どのように展開されるのか、楽しみです。

園の先生が、「子ども同士で“何しようかな”と言い合い、考えるようになった。」「家庭で、園での遊びを口にし、素材を準備してくるようになった。」と子どもたちの変化をうれしそうにお話しされていました。

“保育が変われば子どもが変わる”ということを改めて学ばせて頂く貴重な機会となったのではないのでしょうか。



参加園

- うみべのもり保育所
- 岡田保育園
- さくら保育園
- 平保育園
- タンポポハウス
- なかすじ保育園
- 中保育所
- 西乳児保育所
- 東山保育園
- 八雲保育園
- やまもも保育園
- ルンビニ保育園
- 倉梯幼稚園
- 三鶴幼稚園
- 舞鶴幼稚園

公開保育  
カンファレンスより

与えられる経験ではなく、子どもたちがつかんでいく経験が大切

～北野先生のコメントより～

<0歳児>

手作り玩具がたくさん準備され、それぞれのコーナーに“さわってみよう”“なんだろう?”と思わせる仕掛けがあり、それぞれが好きな玩具を見つけ、じっくり遊ぶ姿が見られました。子どもたちの穏やかな表情には、安心感がみられ、先生に共感を求める眼差しがたくさんみられました。

【担任の先生より】

環境を見直し、手作り玩具を増やすことで、自発的に遊ぶ姿が見られるようになった

【北野先生より】

◎色・形・動き・触覚等、0歳児の教材、5感を意識した心地よい空間になっていた。

◎手作りおもちゃは、色・さわり心地・音の出る物等、工夫され、子ども視線で発達を考え作られていた。

◎玩具の量が十分にあることで、遊びたい玩具で満足するまで遊ぶことができるよう考えられていた。

◎隠れられる空間がとてよい。うまくコーナーがつくられ、遊び込める環境づくりがなされていた。

◎手作りのポットン落としは、穴を開けたところに違う色のテープを貼ると目立つし、安全でもある。

◎子どもたちは先生と良い関係が築けている。

信頼関係ができていて、社会性が育っていた。



<1歳児>

米粉粘土遊びでは、手で丸めたり、ちぎったり、感触を楽しむ姿や、ままごとから包丁やフォークを持ってきて、切ったり、刺したり、作った物を皿にのせる等、見立て遊びをする姿がみられました。

【北野先生より】

◎粘土遊びでは、素材が豊かで、道具、カップの量が十分にあることで、見立てたり、指先を使い、集中して遊んでいた。

◎教材が環境としてあり、子どもがしたい遊びを選べる工夫がなされていた。

◎ままごとや押し入れ下のコーナー、1歳児の発達に合った遊びのコーナーづくりがされていた。

◎シール貼るための台紙や、貼る部分を示すものを先生が作るのではなく、子ども達がするとよい。ペットボトルのキャップなどで、スタンプする等、子どもにとっては遊びになる。

◎運動コーナーの鉄棒はぶら下がるだけでなく、くぐったり、クネクネしたりできる動線にしてはどうか。



<2歳児>

小麦粉粘土コーナー、ままごとコーナー、運動遊びコーナー、電車コーナー等、子どもたちが遊びを選び、じっくり遊ぶことができるように環境が整えられていました。友だちを意識し、運動コーナーで真似してみたり、「こっちしょ～」とままごとに誘いかける姿がみられました。

【北野先生より】

◎空間の作り方が工夫され、それぞれのコーナーでよく遊び、よくしゃべっていた。

◎ままごとコーナーには手作りの玩具があり、よく遊んでいた。

◎粘土コーナーには一人ひとり粘土板を置くと、空間が区切られ集中できるのではないかと、遊びによって、自分の空間をつくらせてやることも必要。どうすれば遊びこめるかを、子どもの姿を見ながら考えていく。

◎運動コーナーは無理にルートを決めなくてもよい。子どもがやりたいと思ったところを、満足するまでするのもよい。満足すると他にも移っていくのではないかと。

◎コーナーや遊びをルーティンにせず、子どもの興味関心や、子どもとの相互作用で、変化させていくことが大切である。

◎数を数えることについては、数えることに意識を向けるのではなく、遊びながら、楽しみながら数に触れていけるように意識する。

◎いざこざの解決は、いざこざの中でしか身につかない。怪我につながることや暴力、外見や性差について何かあった時には、なぜいけないのか教え、年齢に応じて注意していく。



「今日のお店屋さんごっこなどの遊びを見て“プロジェクト型保育はこれだ!”と思った。」  
～北野先生のコメントより～



#### <3歳児>

準備してもらった写真を見ながらギターを黙々と作る姿が印象的でした。作ったドラムを得意気に叩き鳴らし、

作った物で遊ぶ様子が見られ、ごっこ遊びへの発展が見られました。

#### 【担任の先生より】

前日の振り返りでギターの話が上がり、楽器を作ることになった。

#### 【北野先生より】

◎3歳児はごっこ遊びの宝庫。3歳児でごっこ遊びをしっかりとすると、4、5歳児の協同的学びにつながっていく。

◎子どもがイメージを持って遊んでいる。様々な色や素材があり、イメージを形にしたいくなる環境である。

◎手作り楽器を、歌の時や、集会の時に演奏させてあげるとよい。

#### <4歳児>

廊下にひかれた線路をたどり、部屋に入ると大きな電車。奥にはお店屋さんやままごとコーナーがあり、そこで子どもたちが物づくりをしたり、ごっこ遊びをしたり、それぞれイメージを言葉にして伝え、遊びを進める様子が見られました。子ども一人ひとりの発想や思いを大切にしている雰囲気があり、伸び伸び表現できる環境が準備されていました。

#### 【担任の先生より】

コーナー保育に取り組み、子どもと相談しながら環境をつくった。子どもたちの好きな電車の絵本から電車づくりへと発展。お店屋さんでは、子どもたちの提案で、トイレやシャワーづくりが始まった。

#### 【北野先生より】

◎子どもたちがとても楽しそう！協同的な遊びができていて、少人数のコーナーが繋がってきている。

◎シャワーやトイレなど、子どもたちがよく考えていた。

◎子どもたちをしっかりと見る、気持ちを洞察することが大切である。

◎言葉でなくても、行動での創意工夫がたくさんあった。行動の創意工夫は振り返りで先生が言語化するとクラスの共有につながる。



#### <5歳児>

遊びが部屋を飛び出し、園全体が子どもたちの想像を膨らませられる遊び場になっていました。部屋では宇宙ごっこ、お店さんが展開され、手作り衣装をまとった宇宙人が買い物に行き、プールでは宇宙へ行くためのロケットづくりが進んでおり、それぞれの遊びがつながり、役になりきる姿がみられました。また、3、4歳児も遊びに加わり、クラスの枠を越えての関わりがありました。

#### 【担任の先生より】

子どもたちから「お店屋さんしたい」という声が上がりに、街探検をして、どんなお店にしたいかを、子どもたちと話し合いながら進めていった。

#### 【北野先生より】

◎役割分担をして、よくしゃべっていた。5歳児ならではの様子が見られた。

◎それぞれがイメージをしっかりともっていて、形にしようとしていたり、イメージを先生や友だちに言葉で伝え、共有しようとする姿がみられた。

◎ドキュメンテーションとは別に、友達同士が遊んでいた場面の写真を子どもの目線で見えるところに貼り、子どもたちが振り返ることができる物があるとよい。プロジェクトにつながっていく。



#### <全体を通して>

#### 【園長先生より】

4月から、全職員で保育を見直し、玩具や室内環境を整えてきた。今日はゴールではなく、通過点である。さらに勉強していきたい。

#### 【北野先生より】

◎子どもたちが自分で決め、自分たちで遊びをつくる。まさにプロジェクト型保育であった。

◎教科書通りの小学校教育に対し、指導案通りでなくてよいのが幼児教育である。子どもたちがトピックについて創意工夫していき、子どもとの相互作用で作りあげるエマーゼントカリキュラム（子どもの興味関心をテーマに進める教育法）である。

◎行事も子どもの興味関心から子どもと一緒につくりあげていけるとよい。そのため、なぜこの行事をするのか。行事を通して子どものどんな学びにつながるのか…を考えてほしい。

◎いかに固定概念を外せるか…が先生に求められている。

#### <参加者からの感想>

◎自園では部屋の中で済ましてしまう活動が多く、部屋から出ていくことを制限したりもするので、クラスの枠を越えて自由に部屋を行き来されている様子を見て参考になった。

◎3歳児が、実物の写真を見ながらとても熱心にギターを作っている姿が印象的であった。子どもたちの興味関心をとらえ、遊びにつながるよう環境を整えることの大切さを学んだ。

#### <Q&A>

Q:たくさんの廃材があったがどのように集めているのか？

A:保護者に呼びかけたり、子ども達も自分達がほしいと思った物を家から持ってきている。

Q:図鑑や絵本がたくさんあったが、どのタイミングで購入しているのか？

A:子ども達が興味を持っている様子から購入したり、図書館で借りたりしている。また、興味関心につなげるため、意図して準備することもある。

Q:お店屋さんごっこのうどんに本物のネギが使ってたが、本物を使う意図は？

A:芽が出てきた野菜を観察できるように置いていたところ、子どもたちがネギを見つけてうどんに入れることを思いついた。

11月10日 保育のリーダー研修を実施しました。

乳幼児教育の専門職として、研修等に参加して学び続けることは重要です。また、日々園の中で保育を語り合い、学び合うことも互いの保育を高めることにつながります。今回は、各園の保育をリードしていく立場の先生にご参加いただき、園内研修の方法や、研修におけるリーダーの役割について学びました。

講義「園での保育リーダーとしての役割と園内研修の方法について」  
～神戸大学大学院准教授北野幸子先生～

質の向上と研修

◎専門職として研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たす必要がある。  
◎乳幼児教育の質の向上のために、研修は欠かせないものである。研修は個人、プライベートレベルでやるものではない。  
個人の責任→組織のマネジメント→さらには制度化へ 研修を受けることを保障する制度が必要とされている。  
◎学び続ける保育者を支えるシステムの構築が必要。努力して学び続けている人への差異化、評価、待遇改善等、制度としていけるとさらなる質の向上につながるだろう。

受動的研修→能動的研修へ

受動的研修から能動的研修へ

1. 動機づけ  
自明性と必然性＝具体的な子どもの姿（興味関心、発達の特徴、生活課題等）
2. 研修の参加と参画  
個々が、発言したり、考えたり、創ったり
3. 研修の結果、意義の実感
4. 研修の後の評価  
抽象的評価から、変化を可視化し、評価を発信する

- ◎与えられた研修課題や講演の聴講から、子どもの姿から課題抽出をした能動的研修に変えていく。
- ◎参加者が考え発言し、提案し合う機会にする。
- ◎研修後の評価は、「よくなった」「がんばった」などの感情的なコメントでなく、「〇〇がこう変わったね」など、具体的な変化を捉えて発信することが大切である。
- ◎研修をどう活かすかを意識することが大切である。保育にどのようにフィードバックできるか、環境設定、教材づくり、子どもへの援助・・・自分の保育をイメージしながら研修に臨む。

参加園

うみべのもり保育所	東山保育園
岡田保育園	八雲保育園
さくら保育園	やまもも保育園
相愛保育園	ルンビニ保育園
タンポポハウス	
なかせ保育園	舞鶴聖母幼稚園
中保育所	舞鶴幼稚園
西乳児保育所	

保育者の自己発揮を支える

- ◎保育者一人ひとりの得意分野を伸ばし、アイデアを発揮できるようにサポートすることが必要である。
- ◎子ども同様に、保育者のよいところや頑張りを認め褒め、保育者の自己評価を高めることが大切。それぞれを認め合うことで、よい保育者集団になる。
- ◎若手が精神的に疲弊してしまう傾向がある。あせっている保育者には、経験して一つ一つ力がついていくという事を伝え、話を聞き、支える存在となる。
- ◎保育はマニュアル化できない。去年やった事が今年同じではない。子どもの姿から展開する保育を大事にし、保育者が主体的に保育を考えたいけるようにする。

実践 グループワーク体験

グループワークの内容

- グループワークの目的共有
  - ・保育には様々な見方や方法があることを知る
  - ・年齢発達を捉える
  - ・保育の中の学びと育ちを見とる
- 保育の記録を見て、下記①～⑥の項目が書かれたワークシートにそれぞれが記入
  - ①保育のきっかけ(子どもの興味関心から)
  - ②子どもの姿、思い
  - ③保育者の関わり、意図、ねらい
  - ④環境(意図的な環境設定)
  - ⑤学び、育ち(年齢発達、根拠となる子どもの姿、言葉も含め)
  - ⑥あなたが保育を展開するとしたら
- シートに記入した内容を意見交換
- 発表者がグループの意見をまとめ報告

ファシリテーターのポイント

研修の流れや目的を、全員で共有し、見通しを持ち、学ぶ視点を明確にして参加できるようにしましょう。

安心して発言できる雰囲気をつくるのが大切です。

- ・発言者の話を最後まで聞きましょう。
- ・否定せず、それぞれの意見を尊重しましょう。
- ・全員が発言できるように話をふりましょう。
- ・発言に困っている場合には、助け船を出しましょう。

基本的なルール

- 楽しく研修を行うことが「回僚性」「学び合い」につながります。
- ・笑顔・うなずき(お互いに気持ち良く話ができる)
  - ・問いかける(多様な考えを受け入れる気持ちになる)
  - ・学ぶ姿勢で(自分の保育を謙虚な気持ちで変えてみることにつながる)

※回僚性: 質の向上を目指して、お互いに実践を検討し合い 問いかけ合い、高め合い、支え合うような組織文化

<ファシリテーターより感想>

- ・皆の意見を聞かなくてはならないのに、自分の意見を言いたくなって困った。
- ・すすめていくのが難しかった。話を広げていったり、まとめるのも難しかった。
- ・初めてだったので戸惑ったが、意見もたくさん出て、皆さんに助けられた。
- ・職員一人ひとりの自己発揮ができるように努め、事例をもとに園内研修ができればいいなと思った。
- ・グループワークで行った事をそのまま園に持ちかえり実践してみようと思った。



どのグループも熱く保育を語り合う様子が見られ、活発な意見交換がなされていました。リーダーの先生を中心に、それぞれの園で保育記録やドキュメンテーションを活用し、園内研修をされてはどうでしょう。



乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年2月3日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

11月15日 中保育所 中舞鶴幼稚園 中舞鶴小学校 保幼小連携公開授業・保育が実施されました

中舞鶴は1中学校、1小学校、1幼稚園、1保育所からなり、保幼小中の連携が以前から活発な地域です。今回は、夏の小学校教育研究会生活科部との合同研修で立てた「たのしいあき いっぱい」の連携活動プランを元に公開授業・保育を実施していただきました。この研修で計画した連携活動プランを市内のどの協力園・校も実施することとなり、参加して下さった教師や保育者の皆さんにとっても大変学ぶことが多い内容となりました。

夏に引き続き、鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生にご指導をいただきました。

日時：11月15日（火）9：45～10：30

場所：中舞鶴小学校 体育館

参加：中舞鶴小学校 1、2組 ひばり 53名  
 中舞鶴幼稚園 5歳児すみれ組 26名  
 中保育所 5歳児さくら組 23名

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園	朝来小学校	三笠小学校
岡田保育園	池内幼稚園	余内小学校	明倫小学校
さくら保育園	倉梯幼稚園	池内小学校	福井小学校
相愛保育園	橘幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
なかすじ保育園	中舞鶴幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
東山保育園	舞鶴聖母幼稚園	倉梯小学校	与保呂小学校
八雲保育園	三鶴幼稚園	倉梯第二小学校	
やまもも保育園	ひばり幼稚園	志楽小学校	
ルンビニ保育園	舞鶴幼稚園	新舞鶴小学校	
うみべのもり保育所		高野小学校	
中保育所		中舞鶴小学校	
西乳児保育所		中筋小学校	

当日までに、近くの山や公園、小学校と一緒に秋の自然物を集めたり、交流をしたりしてきました。その中で、子どもたちの興味や関心のある秋の自然物を使った遊びを4つのコーナーにし、5歳児と1年生がペアで遊びのコーナーを選び、活動していました。必要な材料や道具は各コーナーをつなぐエリア上にあり、そこで情報を交換する姿も見られました。

体育館 4つのコーナー

<遊びコーナー>

秋の自然物を使ったおもちゃを作ったり、ゲームを考えたりする。どんぐり釣りやころころゲーム等遊んだ人が楽しめるような遊びを考えてほしい。（指導案より）



<服コーナー>

服を作ったり、装飾品を製作する。作ったものを使ってファッションショーをしたり、お店ごっこをして楽しんでほしい。（指導案より）



材料・道具

<転がし遊びコーナー>

大きな動きを伴う遊びを考えて楽しむ。雨どいを使ってどんぐりを転がしたり、ゴムで飛ばす際に転がった距離を比べる等の工夫をしながら遊んでほしい。（指導案より）



<楽器コーナー>

楽器や音の出るおもちゃを作る。演奏したり、実際に音を出して楽しんでほしい。（指導案より）



ステージ

事後研究(カンファレンス)

中舞鶴小1年担任

◎保育所、幼稚園の子どもたちとの取り組みは3回目になるが、1、2回目は、1人で動いている子もいたので、振り返りでペアの子と話し合う、子どもたちの中の担当、役割分担を意識するよう投げかけた。

◎3回目が変わったところは、2人で手を取り合って作る、考えて知らせる、手伝う、2人で一緒に作るなどが見られ、自分たちでやりたいことを主体的にしている。

◎始めはファッションショーだけだったが、子どもたちのやりたいことが縛られてしまうなどを話し合い4つのコーナーにした。

◎ペアは1学期から固定し、材料集めから一緒にしたが、初めは話もできなかった。

◎リーダーでお手本になる子も、対等の子もいたが、自分たちがリーダーという自覚も出てきた。

中舞鶴小1年担任

◎生活科の中の取り組みとして交流してきた。

◎ペアを組ませることで関係性ができ、前回から役割分担ができるようになった。

◎一人でやってしまっている子にどのようにつなげるかが難しかった。

◎こだわりを持って作るような働きかけが難しかった。

◎秋のものをたくさん使ってほしいがあまり使っていない子もあり、集めるところから考えさせることが必要だった。

◎1年生と幼児が順に使ったり、一緒にできた喜びを感じたりしていた。

◎ペア同士の遊ぶ関係性につなげたい。

中舞鶴幼稚園年長担任

◎年長組として一学期から交流してきた。

◎毎回楽しみに待っており、ペアから友だち関係ができてきた。

◎園では一番上でお世話をしているが、連携では1年生に助けてもらう。

◎初めは自分で言えなかったが、「今日は〇〇を作りたいからこれを持って来た」「このコーナーに行きたい」と自分で伝えるようになった。

◎こんな考えや工夫もあるということを通途中言葉がけするか迷った。

◎ペア同士をつなげる言葉がけがあってもよかった。

◎作ったものを紹介すると同じものを作ってしまうので難しい。

中保育所年長担任

◎いつもは保育所の慣れた園庭でとい遊びを楽しんでいる。今回、それぞれ興味のある遊びから選ぶということで、体育館でやったがいつもの環境とは違った。

◎いつもと違う環境で違う友だちと考える機会にはなったが、遊びの展開は難しかった。

◎園庭では自然の物を使うが、体育館では1年生の子が中心になって物をそろえ、転がす、高さを考える、ロープウェイ等遊びが広がっていった。

◎ステージを使っていたら友だち同士で工夫しなかったので、ステージは使わず階段を使い、今日はまわりで集まる姿、友だちが隣のグループを見て遊びを広げる姿もあった。

◎道具が足りないときも「一緒に使ったら」「持つといて」「取ってきて」という声かけがあり、協力する姿も見られた。

保幼小接続カリキュラム策定会議会長 溝邊和成先生(兵庫教育大学大学院教授)コメントより

【保幼小の連携関係】

◎子どもが実際にペアになって手をつないで協同製作することの大事さ、おもしろさ、少し抵抗もありながらというのが一番学びが多い。

◎1年生が幼、保の子に教える場かというとうそではない。

◎木に輪ゴムを引っ付けてつながるかを確認し、「これをこうやってつなぐ」と言い始め、良い発見だった。自分で確認できないと相手に伝えられない。横で幼児が待って見ている姿は大いに意味があった。

◎子どもの役割はお互いがサポーターの場合もある。

【環境構成】

◎体育館はどういう発想で、子どもの動線はどうかを考えないといけない。

◎真ん中に道具がいいのか、端に道具がいいのか、いろんな意図や発想があってされているのだろう。今後の環境構成が楽しみである。

【子どもの遊びの連続性】

◎指導案では、最後は秋パーティーをとあった。そこを子どもが見据えて、どんなイメージでどんなビジョンを持っているのか、持たせられているのかが気になった。

◎自分自身の自覚的な学びになっているととっても良い。

◎大事なことは、子どもたちが前の活動とのつながりや、どこまでやろうという見通しや思いを意識できているかである。それを先生たちはどのように導いていくのかも大事にしていくとよい。

木下先生 講評

時間をどう構成するか、空間をどう構成するかが今後の鍵になってくる  
～木下先生コメントより～

【活動について】

◎準備しすぎてはいけない、環境構成は大事である。

◎転がし遊びをなぜ体育館でやったのか、いつも保育所では園庭でしているのならいつもの方がよかった。といに水が流せない、TP0をいかにうまく使うか。

◎小学校には小学校の良さ、保育所、幼稚園には保育所、幼稚園の良さがあり、遠慮してしまうと互いの良さが生かされない。

◎お互いに「こういうことを大事にしているからこうしたい」としっかり伝え合う。

◎といを止めるのはクリップだったが、これは子どもの発想が生かされたのか、園庭だといろんなところからいろいろなものを探して来ることができる、これが子どもの学びになる。

◎教科や時間割のある小学校とチャイムもない保育所の中での連携だが、雨が降れば次の日にと変更すればよい。

◎互恵性はあった、あとは環境構成、公開授業・保育だからではなく、遠慮しないで相手を信頼して言い合えばよい。

◎必ず通らなければならない道である。大事なのは次回、今日と何が違うかを感じ、そこで先生たちが学び合い成長することが大事である。

◎最初、9時半にそろっているのに9時50分にチャイムがなってからの活動だったが、待つ時間ももったいない。やりたければ先に始めてもよい。後から加わればよい。

◎時間をどう構成するか、空間をどう構成するかが今後の鍵になってくる。

◎小学校に環境を通して学んでほしいこ

とは、子どもが自ら環境にどう働きかけているか、必要なものを自分で取りに行っているか？である。今日は先生が作られた環境の中で取りに行った。

◎小学校、保育所、幼稚園、それぞれの環境を生かしていくことが大事である。

◎若い4人で異なる教育を見て学んで改善できることが大変良い経験になった。

◎子どもたちに「協力しなさい、仲良くしなさい」は言わない。今日だけでなく、普段からすることが大事である。

◎振り返りの中で、今日の活動で仲良くしていたチームを紹介することで伝える。活動の中で、先生が見つけた素敵なペアを紹介し子どもにフィードバックすることが大事である。

◎活動の中から教師自身も学ぶことが大事である。

## 木下先生 講評(つづき)

## 〇〇することを書くのではなく〇〇することで何を学んでいるかを可視化する (指導案)

木下先生コメントより

## 【先生同士の学び】

◎5年前は一方的に小学校が説明され、仕組んだことをしていたが、今回は互恵性が見られずいぶん連携が進んだ。  
 ◎小学校は若い男の先生が1年生を担当しており、早くから学ぶことができる。  
 ◎連携でまず大事なことは、幼児教育に何を学んだかである。  
 ◎体育館が、幼児にとって違和感がなくなってきた。入学式の時には安心感があり子どもに大きな意味がある。  
 ◎連携は小学校にとってお得、小学校教育を安心感からスタートできる。連携がないと不安感からのスタートになる。回数を重ねるごとに少しずつ慣れると良い。  
 ◎子ども同士の連携、先生同士の連携、先生たちが一緒に何を学ばれたかが大事である。  
 (小学校)  
 ◎子どもたちの「〇〇したい、□□したい」という思いに準備しすぎてもいけ

ないことや、あるものから遊びを発想することを学んだ。  
 ◎幼児にどんな言葉がけをしたらよいか。  
 ◎小学校の舞台にのせるのではなく、保育所、幼稚園の中に自然に入れるようにすることや、場の位置、環境設定も学んだ。(幼稚園)  
 ◎教師も同じ思いで連携していかなければならない。  
 ◎環境構成など小学校との違いを先生たちにどう伝えやり方を歩みよるかが難しかった。  
 (保育所)  
 ◎連携は4月からいろいろと取り組み、初めはコミュニケーションが難しかった。  
 ◎小学校に任せるのではなく、互恵性を意識してしっかり話し合うことで先生同士も変わってきた。  
 ◎子どもたちも変化し協力するようになってきた。

## 【指導案について】

◎今日は生活科の指導案。保育の中で育てたい力があつたはずなので、保育指導案が別にあつてもよい。どんなことをどんな活動を通して育てたかったのかを書く。  
 ◎〇〇することを書くのではなく、〇〇することで何を学んでいるかを可視化することが大事である。  
 ◎何を子どもたちが学んできたかを書かれるとよい。  
 ◎教える、お世話するは書かれていないので互恵性を意識されているのがよかった。



## 現地研修 報告

## 【平成28年度 幼児教育研究会】

日時：11月19日(土)  
 場所：鳴門教育大学附属幼稚園  
 参加：岡田保育園、昭光保育園、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、舞鶴幼稚園  
 内容：公開保育、研究発表、分科会、対談  
 参加者アンケートより  
 【公開保育について】  
 「季節の自然物を使ったものが至る所に展示されている」「子どもの動線を考えた環境構成」「自然物ひとつとってもなぜここに置かれているか等が良く考えられている」などの環境や子どもたちが自ら遊びをつくり出す主体となっている姿、それを支える保育者の姿に参加者の多くが刺激を受けてきました。  
 ◎一人ひとりの子どもが自分なりの目的をもって遊びに没頭している姿があった。  
 ◎子ども達が使う(自ら)という観点での

素材、棚、ロッカー等の配置などがしてあり、子どもの中に使い方、ルールが定着していて、そのことが各々の遊びへの集中を高めていることを感じた。  
 ◎子どもたちが自分たちで遊びを進めていく場面も多く、保育者が遊びの仲間として参加する中で、保育者自身が感じたことをしっかりと伝えておられる場面が多く勉強になりました。  
 ◎子ども達が1人や2人等少人数であっても自分の遊びに夢中になって遊んでいる。それぞれの遊びの丁寧な環境構成、子どもの遊びや気持ちをつなげる関わりの大切さを感じた。  
 【研究発表・分科会・シンポジウム】  
 ◎分科会では新任ならではの悩みがあり、私も共感できました。失敗を恐れずに挑戦することで、保育の質も向上するとおっしゃっていたので、どんどん挑戦していこうと感じました。  
 ◎研究発表では日々の日誌を見直され、保育者の素直な率直な思いを綴る欄ができたことでの心境や保育の変化を聞くことがで

き、参考になった。保育がどのように変化していったのか、そのときのリアルな思いを聞くことで、この欄ができたことで、自身の保育を真に振り返るよききっかけになったんだなあと思い、私も自身の保育を振り返るきっかけとして参考にしたいと思った。  
 ◎「子どもができるようになるのではなく、子どもが好きになるような保育者の援助(関わり)が大切ですね」とお話されていたところがとても印象的でした。子ども一人ひとりに対する一言一言の大切さを改めて感じました。  
 ◎「教育課程を語る・・・言葉と子どもの姿が結びついているのか?」の言葉が印象に残りました。育てたいことを見失うことなく保育と向き合っていきたいと思います。  
 ◎保育者が生き生きとした子どもの姿を語れることが保育の喜びであり、成長となることや職員関係の言いやすさ、プラスもマイナスも出し合えるような環境が大切であると感じました。

## 【神戸大学附属幼稚園・附属小学校 平成28年度 研究発表会】

日時：11月19日(土)  
 場所：神戸大学附属幼稚園・附属小学校  
 参加：昭光保育園、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、高野小学校、吉原小学校  
 内容：公開保育・授業、事後検討会、部会提案、シンポジウム  
 参加者アンケートより  
 ◎幼稚園の子どもたちが、本当に園庭中を所狭しと動き回り、好きな遊びに夢中になり、友だちとかかわり遊んでいる姿を見て、主体的に遊ぶとは、本当に心も身体も

のびのび楽しみ、満足しているのだなと感じた。落ち葉が集められていたり、土山や土管などの環境構成もすばらしく、子どもたちがわくわくしながら遊ぶ気持ちが伝わってくるようであった。子ども同士の会話がたくさん聞かれ、言葉の世界も豊かだと思った。  
 ◎秘密基地の設計図、地図が子どもなりの表現で書かれており、それを見てから園庭に出る子があり、みんなで共有するツールになっていた。  
 ◎ごっこ遊びの中で、自分のしたい事を伝えたり言ったりしながら、友達の考えにも同意したり反論し、子ども同士でごっこ遊びの世界をつくりあげようとする姿が良いと感じた。(自分と友達の間でのすり合わ

せができ、個人の遊びがそれぞれつながっていたため)  
 必要な物が自由に使えるようにしてある環境構成も良かった。(子どもの遊びに応じて必要なものがさりげなく用意してあった。)  
 ◎園庭の中に、子どもたちが作り上げた様々な環境設定があり、やりたいことを存分にしていたので良かった。室内の玩具を自由に持ち運んでくる場面を見て、自分はそこまで子どもの気持ちを受けとめられるだろうか・・・と思った。  
 ◎一年生事後検討会で、公開保育の中ではわからなかった今までの時間的な取り組み方、お店屋さんごっこの年長児と1年生の違いがよくわかった。

平成28年度 第9号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年3月29日  
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

平成29年1月25日 保幼小連携研修会～実践交流・講演～を実施しました。

今年度連携活動を担当している保育所・幼稚園年長児担任、小学校1年(2年)担任教諭、並びに小学校教育研究会生活科部教諭を対象に保幼小連携研修会を実施しました。

各連携協力校・園が中学校区ごとに分かれて実践交流し、グループ発表を行いました。交流の視点は、「①活動の中の子どもの学びや育ちを見取る」「②子どもの学びや育ちを支える教師・保育者の関わりについて考える」の2点でした。時間も短く実践報告が中心になってしまい、なかなか深める時間までとれませんでした。各校・園の連携活動をまとめた実践シートを配布し、保育者・教員が共に実践を振り返ることができ、今後の連携活動に大いに役立つのではないかと考えます。

鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生のご講演では、遊びの中の育ちや学びを見とり記録すること、そして、可視化することについて学びました。

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園	朝来小学校	中筋小学校
岡田保育園	池内幼稚園	余内小学校	三笠小学校
さくら保育園	倉梯幼稚園	池内小学校	明倫小学校
相愛保育園	シオン幼稚園	大浦小学校	福井小学校
なかすじ保育園	橋幼稚園	岡田小学校	由良川小学校
東山保育園	中舞鶴幼稚園	倉梯小学校	吉原小学校
八雲保育園	舞鶴聖母幼稚園	倉梯第二小学校	与保呂小学校
やまもも保育園	三鶴幼稚園	志楽小学校	
ルンビニ保育園	舞鶴幼稚園	新舞鶴小学校	(50音順)
うみべのもり保育所		高野小学校	
中保育所		中舞鶴小学校	
西乳児保育所			

実践交流

《青葉ブロック》

- 倉梯小学校・倉梯幼稚園  
 倉梯第二小学校・ひばり幼稚園・森の子ら幼稚園  
 与保呂小学校・さくら保育園  
 三笠小学校・うみべのもり保育所・橋幼稚園
- ◎年長児は小学生の姿をよく見ていて憧れ、見ている中に学びもある。
  - ◎小学校を知ることで、就学への意欲が高まった。
  - ◎事前打ち合わせを実施し、教師・保育者が話し合うこと、年間計画に入れ回を重ねていくことが大切。
  - ◎小学校からも保育所、幼稚園に行くと就学もなめらかになるのではないかと。
  - ◎お客さんでなく、お互い一緒に活動できるようにしたい。
  - ◎一緒に活動する中で、何が育ったかを振り返る時間を持つことが大切。
  - ◎回を重ねるともっとお互いに力が発揮できるのではないかと。
  - ◎年長児は遊びの中でいろんな力、学びを持っている。それを小学校教師も知ること、指導者同士の関わりが大切。
  - ◎幼児がお客さんになるのではなく、互恵性のある活動にするため、課題を次年度に生かしていく。
  - ◎小学校、幼稚園がお互いの場所に行くことで学びも深まる。
  - ◎年間を通して連携をしていくことが大切。

《城北ブロック》

- 吉原小学校・相愛保育園  
 福井小学校・ルンビニ保育園  
 余内小学校・東山保育園・聖母幼稚園  
 明倫小学校・舞鶴幼稚園・三鶴幼稚園
- ◎1.2年生へ準備や計画をしっかりとし、保育園・幼稚園の子のことを考えることができた。
  - ◎年長児へ「もっと遊びたい」「早く小学校へ行きたい」小学校への憧れ、期待感、安心感が持てた。
  - ◎小学校は事前学習で知ったことを年長児に伝え、年長児は自分たちの知っていることを小学生に知らせるなど、お互いの知識を伝え合う姿が見られた。
  - ◎数量の学習から「食べられる量はどのくらい？」と考えたり、「どうやって食べたかなあ」といえない時にも気にかける姿があった。(おいもパーティーの実践より)
  - ◎最初は1年生が声をかけられない姿があったが、交流を進めるうち、お互いに関わる姿へと変わってきた。
  - ◎ペアで一緒になって夢中になる姿があった。
  - ◎何が良かったか振り返りを深くすることが大切である。
  - ◎担任同士の交流、年間を通して計画を立てることが大切である。
  - ◎交流を通して一緒に何かをするという視点で見ることが出来る。
  - ◎今後は交流回数を増やしたい。
  - ◎春からそれぞれで共通した活動を行い連携活動につなげたい。
- (例 あさがおを育てる→リース作り)



《若浦ブロック・加佐ブロック》

- 朝来小学校・朝来幼稚園  
 大浦小学校・平保育園  
 岡田小学校・岡田保育園  
 由良川小学校・八雲保育園
- ◎リーダーシップをとれない子どももグループの中では活躍することができた。
  - ◎小学校への憧れの気持ちが持てた。
  - ◎子どもの「やってみよう！」から活動につなげる。幼児がしていることを小学生とも一緒にしたい。小学校でやっていることにチャレンジしてみたい。
  - ◎子どもが小学校と保育園の違いを発見できた。
  - ◎小学校ではものをセットしすぎてしまうが、子どものひらめきをつぶさないようにしたい。
  - ◎ねらいを絞って指導することで、子どもの様々なつぶやきが生まれた。
  - ◎小学生が教えるのではなく共に学ぶ。「教えてあげよう」は使わない。「協力しよう」「仲良くしよう」等の言葉を使うようにした。
  - ◎発信することの重要性。

第2回 保幼小接続カリキュラム策定会議 12月15日

第1回の内容を振り返り、改めて接続カリキュラムのイメージを共有した後、2グループに分かれて「保幼小連携の現状と課題」「育てほしい子どもの姿」について協議しました。

幼児教育が小学校教育の前倒しではなく、保育所・幼稚園での育ちを引き継ぎ、学習への興味・関心へつないでいくこと、連携活動を通じて、保育者・教員同士が相互の教育の方法

や子どもの学びの姿を理解し合うこと、子どもの自信や自己肯定感をつなぐことなどの意見が出されました。一方で、主体的な遊びや体験から学ぶ乳幼児教育と、教えることが決まったり、受け身になりがちな小学校以降の教育の違いをどう越えていくか、といった意見もあり、双方の現状や課題を共有する良い機会になりました。

こうした議論を深めることによって、実践に活かせるカリキュラム作成につなげていきます。



### 《城南ブロック》

高野小学校・永福保育園  
中筋小学校・なかすじ保  
育園

池内小学校・池内幼稚園

◎回数を重ねるごとに子どもたちの距離も縮まったが、いつもと違う環境に戸惑っている様子も見られた。

◎1回目はぎこちなく小学生は小学生で年長児は年長児の活動が目立っていたが、2回目にはペアのお友だちの名前を呼ぶ姿や、一緒にしようとする子どもたちの意識もみられ、ペアの中で「僕はこれをするから〇〇君はこれをして」と、自分たちで役割を決めて進める姿も見られるようになった。

◎子どもたちの発想を大切に活動を進める中で、小学生がリードし目的をもって活動を進め年長児はついていく形となった。1年生ということで小学校では1番下であるが、年長児に対し優しい言葉をかけ教えてあげたりリードしたりする姿が見られ、年長児は幼稚園、保育園で1番上で頼られる立場が逆転し、色々なことを教えてい、沢山の刺激を受けている様子が見られた。いつもと違う立場、環境でそれぞれの子どもの様子や表情も違い、とても良い経験となった。

◎小学校や野外等で行い環境によって子どもたちの様子も違い、環境の大切さや、環境が影響することを改めて感じた。

◎小学生は自ら動く姿や、年長児に合わせた言葉がけや案を出す等、相手意識が芽生えたよう思う。

◎年長児は就学に向けた良い経験をさせてもらい、季節を感じられる遊びや自分たちの教育課程ではまだ経験していない工作等ができ、とても楽しい良い経験となった。

◎交流を重ね、色々な発見があり、子どもたちも学び合うことができる貴重な体験、経験になったと感じる。

### 《白糸ブロック・和田ブロック》

新舞鶴小学校・昭光保育園・やまもも保育園  
志楽小学校・タンポポハウス・志楽幼稚園  
中舞鶴小学校・中保育所・中舞鶴幼稚園

◎保育所、幼稚園の子どもたちは、お客さんではなく自分から参加しようとしていた。

◎年長児からも、準備をしてくる子や、自分からやってみたくと思う子が出てきた。

◎1年生のアイデアや発想を自分たちの遊びに取り入れていた。

◎年長児と関わることで1年生は自主性が高まり、おとなしい子も自分から関わるようになった。

◎1年生はリーダーシップを発揮し、優しく教えてあげる気持ちや期待を持つことができた。

◎単発で終わらず繰り返し経験することが大切。

◎顔合わせは1学期に園で実施することで良さが発揮できる。

◎活動のフィールドについては小学校だけでなく園での良さも生かしていくことで、普段からの遊びが発展する。活動場所は柔軟に考える。

◎ペアを作ることで安心感が得られた。

◎材料の置き方によって活動が変わってくる。子どもの発想を豊かにするために場をどう設定するかが大切。

◎子どもの想像力や応用する力を制限してしまうため準備のしすぎはよくない。

◎連携により、記録をとることは大切だと感じ、記録をとることで

見えてくるものがあつた。

◎小学校ではできあがった完成品

で評価することが多いが、生活科では過程をしっかりと見ると

いう視点も大切で、作り出していく過程の中に気付きや学びがあると感じた。



講演「遊びと学びの可視化について」  
鳴門教育大学大学院 木下 光二教授

連携活動は『してあげる』のではなく『一緒にする』それが互恵性  
～木下先生コメントより～

#### 【連携活動について】

◎連携活動では、子どもたちから「うれしかった」「やったー」「こんどいつくるの?」「いつやるの?」などという声が出ていたので、達成感、満足感を感じ自己発揮ができています。

◎『遊びの中に学びがあること』を**保育所、幼稚園の先生から教わった。『結果ではなく、プロセスの中に学びがあること』を連携活動で学んだ。**(中舞鶴小)

小学校の先生の学びになっている。

◎連携活動は、子どものための接続と、保幼小の先生達の学び合いがある。

◎保育所、幼稚園は徹底的に子どもに寄り添う。小学校の良さは客観的に子どもを見つめる。この両方を学ぶことができるのが**連携活動**。

◎保育所、幼稚園は変えてはいけないものもあり、変えなくてはいけないものもある。何を残して何を変えなくてはいけないか。連続性が大事である。

◎見えない学びはつながらない。園、学校がお互いの学びをよく見て、語り合うことが大事である。

#### 【記録について】

◎遊び、育ちは子ども一人ひとりのもの。個が大切にされなければならない。

◎記録の中に個人名があるか。具体的なエピソードが入っていること、個の学びを記録することが大事である。

◎小学校は森(全体)を見て、保育所、幼稚園は木(個)を見ているのでなく、個の学びを見る。木も森も見えたら一番よい。

◎同じ活動を見て、保幼小がお互いにどう評価するか。それぞれの違いに気付き、共有することで学びになり、記録が学びの手がかりとなる。

◎『〇〇をしたではなく、何を学び何が育ったか』を記録によって明らかにし、お互いの学びをよく見る、語り合うことが大事である。

◎子どもたちは実に豊かなことをしている、やっている。教師は勝手に判断をしよう。見て分らなければ子どもに聞けばよい。

◎長い目、広い目、基本の目で記録を残すことが大切である。

◎「豊かに会話をしていた」「楽しそうに会話していた」と書いても伝わらないが、写真・会話を並べてみると何を学んでいるかがわかる。会話から探求することで、関係性が広がっていく。

#### 【次年度に向けて】

◎交流活動は、やりっぱなしで終わりがちだが、市全体で振り返る時間をもち、活動シートのまとめを作った。大きな成果と言える。来年どのようにステップアップさせるか、今年の成果を来年につなげることが大事である。

◎リアリティのある学びを、いかにバージョンアップしていくかが大事である。



# 平成28年度 乳幼児教育ビジョン推進事業 実施報告書

舞鶴市健康・子ども部 幼稚園・保育所課  
〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸 1044 番地  
TEL 0773-66-1009

本報告書は、文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の委託費による委託業務として、舞鶴市が実施した平成28年度幼児教育の推進体制構築事業の成果をとりまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。